

元総社蒼海遺跡群 (57)  
元総社蒼海遺跡群 (58)  
元総社蒼海遺跡群 (59)

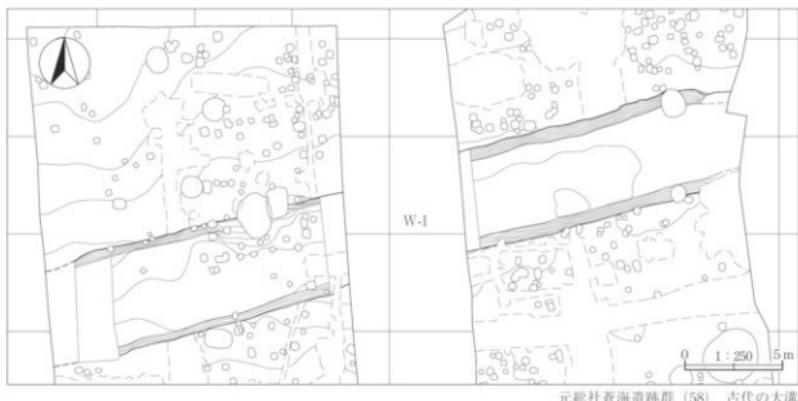
前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 1 4 3

前橋市教育委員会

元総社蒼海遺跡群 (57)  
元総社蒼海遺跡群 (58)  
元総社蒼海遺跡群 (59)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書



元総社蒼海遺跡群 (58) 古代の大溝

2 0 1 4. 3

前橋市教育委員会



元總社蒼海遺跡群（57）、（58）遠景（南西から）



元總社蒼海遺跡群（57）全景（上が北）



元總社舊海遺跡群 (58) W-1号溝跡全景 (西から)



元總社舊海遺跡群 (59) W-1号溝跡全景 (南から)

## はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは總社・元總社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中核をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元總社蒼海遺跡群（57）・（58）・（59）は古代上野国の中核地域の調査であります。上野国府推定地域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めています。今回の調査では、国府の時期と一致する上幅五メートルの古代大溝が検出されました。すでに大溝は東西方向や南北方向に延びるものが五～六条ほど検出されています。東山道に位置する大國上野国国府を解明する上で非常に重要なファクターになっていくと確信しております。

今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。

残念ながら、現状のまでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、寒風の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成 26 年 3 月

前橋市教育委員会  
教育長 佐藤 博之

## 例　　言

1 本報告書は前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（57）（58）（59）発掘報告書である。

2 発掘調査の要項は次のとおりである。

遺跡名　　元総社蒼海遺跡群（57）（58）（59）  
調査場所　　前橋市元総社町1919-1ほか  
遺跡コード　（57）：25 A 156、（58）：25 A 157、（59）：25 A 158  
発掘・整理担当者　　山田誠司（技研コンサル株式会社）  
発掘調査期間　　平成25年11月25日～平成26年1月31日  
整理・報告書作成期間　　平成26年2月1日～平成26年3月20日

3 本書の原稿執筆は1を福田貫之（前橋市教育委員会）、他を山田が担当した。本書はデジタル編集・版組により作成しており、編集作業は山田が担当した。

4 出土した骨については、宮崎重雄氏より玉稿を賜った。記して感謝の意を表します。

5 発掘調査および整理作業参加者は次のとおりである。

大川明子（技研コンサル株式会社）  
飯島冬子　石井俊春　上沢公一　内鶴勝義　大塚とし子　岡野　茂　小田切勝己　小田切幹緒  
加賀美紀子　金古　操　木暮朱実　木暮孝一　小島京子　齋藤政次　杉田友香　高野フミ子　田島君代  
田部井美砂子　田村訓康　中嶋知恵子　中野光雄　平澤小夜子　福島裕子　間仁田章治　間庭啓治  
山田　修　吉井正宏　吉澤栄一

6 本書における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管している。

7 下記の機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。

山下工業株式会社

## 凡　　例

1 挿図中に使用した北は座標北である。

2 握図に国土地理院発行1/200,000『宇都宮』・『長野』、1/25,000『前橋』、前橋市発行1/2,500都市計画図を使用した。

3 遺構名称は、堅穴住居跡：H、堅穴状遺構：T、溝：W、戸門：I、土坑：D、ピット：P、不明遺構：Xである。

4 遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。その他各図スケールを参照されたい。

遺構　堅穴住居跡・堅穴状遺構・戸門・土坑・ピット・その他・・・1/60

全体図・・・1/100、1/150、1/200

遺物　土器・石製品・・・1/3、1/4　鉄製品・・・1/2　古銭・・・1/1

5 本文および表中の計測値については（ ）は現存値を、〔 〕は復元値を表す。

6 遺構図、遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。

遺構　焼土範囲：■　灰範囲：■

遺物　須恵器（還元焰）：■　施釉：■

7 主な火山降下物等の略称と年代は次の通りである。

As-B（浅間B軽石：1108）、Hr-FP（榛名二ヶ岳伊香保テフラ：6世紀中葉）、

Hr-FA（榛名二ヶ岳渋川テフラ：6世紀初頭）、As-C（浅間C軽石：3世紀後葉～4世紀前半）

## 目 次

卷頭図版 1

卷頭図版 2

はじめに

例言・凡例

I	調査に至る経緯	1
II	遺跡の位置と環境	2
III	調査の方針と経過	
1	調査範囲と基本方針	7
2	調査経過	7
IV	基本層序	7
V	遺構と遺物	
1	元総社蒼海遺跡群 (57)	
(1)	溝跡	11
(2)	性格不明遺構	11
(3)	井戸跡、土坑、ピット	11
2	元総社蒼海遺跡群 (58)	
(1)	溝跡	15
(2)	井戸跡、土坑、ピット	15
3	元総社蒼海遺跡群 (59)	
(1)	堅穴住居跡	25
(2)	堅穴状遺構	26
(3)	溝跡	26
(4)	土坑	26
VI	元総社蒼海遺跡群 (57)・(59) 出土の獣骨	30
VII	まとめ	
1	元総社蒼海遺跡群 (57)	34
2	元総社蒼海遺跡群 (58)	34
3	元総社蒼海遺跡群 (59)	35

## 挿図目次

Fig.1	道路の位置	1
Fig.2	周辺道路図	3
Fig.3	元経社着海道路群位置図とグリッド設定図	6
Fig.4	基本層序	7
Fig.5	元経社着海道路群 (57) 全体図	8
Fig.6	元経社着海道路群 (58) 全体図	9
Fig.7	元経社着海道路群 (58),(59) 全体図	10
Fig.8	元経社着海道路群 (57) W - 1 ~ 3号溝跡、X - 1、井戸跡、土坑	12
Fig.9	元経社着海道路群 (57) ピット①	13
Fig.10	元経社着海道路群 (57) ピット②	14
Fig.11	元経社着海道路群 (57) 出土遺物	14
Fig.12	元経社着海道路群 (58) W - 1 ~ 2号溝跡、I - 1 ~ 3号井戸	16
Fig.13	元経社着海道路群 (58) I - 4 ~ 9号井戸跡、D - 1 ~ 3号土坑、ピット①	17
Fig.14	元経社着海道路群 (58) ピット②	18
Fig.15	元経社着海道路群 (58) ピット③	19
Fig.16	元経社着海道路群 (58) ピット④	20
Fig.17	元経社着海道路群 (58) ピット⑤	21
Fig.18	元経社着海道路群 (58) ピット⑥	22
Fig.19	元経社着海道路群 (58) ピット⑦	23
Fig.20	元経社着海道路群 (58) 出土遺物①	23
Fig.21	元経社着海道路群 (58) 出土遺物②	24
Fig.22	元経社着海道路群 (58) 出土遺物③	25
Fig.23	元経社着海道路群 (59) H - 1号住居跡	26
Fig.24	元経社着海道路群 (59) T - 1号堅穴状遺構、W - 1 ~ 3号溝跡、D - 1号土坑	27
Fig.25	元経社着海道路群 (57) X - 1 馬骨検出状況	31
Fig.26	元経社着海道路群 (57) X - 1 1 ~ 2号馬骨検出状況	33
Fig.27	元経社着海道路群 (57)・(58)・(59) 周辺着海域想定図	35

## 表目次

Tab.1	周辺道路一覧表	4
Tab.2	元経社着海道路群 (57) 出土遺物観察表	15
Tab.3	元経社着海道路群 (58) 出土遺物観察表	24
Tab.4	元経社着海道路群 (57) 井戸・土坑・ピット計測表	28
Tab.5	元経社着海道路群 (58) 井戸・土坑・ピット計測表	28
Tab.6	元経社着海道路群 (59) 土坑計測表	30

## 写真図版目次

PL.1	(57) 調査区全景、(57) W - 1号溝跡 全景、(57) W - 2号溝跡 全景、(57) W - 3号溝跡 全景、(57) X - 1 全景、 (57) X - 1 1 ~ 2号馬骨検出状況、(57) X - 1 1号馬骨検出状況、(57) X - 1 2号馬骨検出状況	
PL.2	(57) I - 1号井戸跡 全景、(57) I - 2号井戸跡 全景、(57) I - 3号井戸跡 全景、(57) I - 4号井戸跡 全景、 (57) D - 1号土坑 全景、(57) D - 2号土坑 全景、(57) D - 3号土坑 全景、(57) 溝査区南西ピット群 全景	
PL.3	(58) 調査区全景、(58) W - 1号溝跡 東側全景、(58) W - 1号溝跡 西側全景、(58) W - 1号溝跡 遺物検出状況	
PL.4	(58) W - 2号溝跡 全景、(58) W - 2号溝跡 セクション、(58) I - 1号井戸跡 全景、(58) I - 2号井戸跡 全景、 (58) I - 3号井戸跡 全景、(58) I - 4号井戸跡 全景、(58) I - 5号井戸跡 全景、(58) I - 6号井戸跡 全景	
PL.5	(58) I - 7号井戸跡 全景、(58) I - 8号井戸跡 全景、(58) I - 9号井戸跡 全景、(58) D - 1号土坑 全景、 (58) D - 2号土坑 全景、(58) D - 3号土坑 全景、(58) 調査区東側ピット群 全景、(58) 調査区西側ピット群 全景	
PL.6	(59) 調査区東側全景、(59) 調査区南側全景、(59) H - 1号住居跡 全景、(59) T - 1号堅穴状遺構 全景、 (59) W - 1号溝跡 全景、(59) W - 2号溝跡 全景、(59) W - 3号溝跡 全景、(59) W - 3号溝跡 馬骨検出状況	
PL.7	元経社着海道路群 (57) 遺物写真	
PL.8	元経社着海道路群 (58) 遺物写真	

## I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海地区画整理事業に伴い実施され、15年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成25年9月5日付けで前橋市長 山本 龍（区画整理第二課）より前橋都市計画事業元総社蒼海地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査・整理業務依頼が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答をした。民間調査組織の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、平成25年11月13日付けで前橋市と民間調査組織である技研コンサル株式会社との間で発掘調査・整理業務委託契約を締結し調査を開始した。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（57）（58）（59）」（遺跡コード：25A-156、25A-157、25A-158）の「元総社蒼海」は区画整理事業名を採用し、数字の「（57）（58）（59）」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。



Fig.1 遺跡の位置

## II 遺跡の位置と環境

**遺跡の位置** (Fig. 1) 本調査地は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3kmの地点、前橋市元総社地内に所在し、西には関越自動車道が南北に、南には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に、また東には市道大友・石倉線が南北にそれぞれ走っている。本調査地の立地する地形は、前橋台地上、榛名山麓を源にする牛池川、染谷川が開析・形成した細長い微高地との比高3~5mを測る。遺跡が立地する台地上は主として畠地として利用されているが、本遺跡地の所在する位置は現在住宅地が立ち並ぶ中心地にある。

**歴史的環境** (Fig. 2, Tab. 1) 本遺跡が立地する元総社地域には上野国府推定地や上野国分寺を中心に連続と遺跡が広がる地域である。周辺では関越自動車道建設や区画整理事業などに伴う発掘調査が行われており、多くの遺物・遺構が確認されている。本遺跡周辺地域における時代ごとの遺跡の概要は以下の通りである。

縄文時代の遺跡は八幡川右岸の微高地上に産業道路東〔15〕・産業道路西〔16〕、総社閑泉明神北Ⅲ遺跡〔61〕、本遺跡の立地する牛池川右岸台地上に上野国分僧寺・尼寺中間地域〔22〕・元総社小見Ⅲ遺跡〔59〕・元総社蒼海遺跡群〔24〕などが挙げられ、堅穴住居跡が確認されている。

弥生時代の遺跡としては日高遺跡〔18〕・〔19〕、上野国分僧寺・尼寺中間地域〔22〕、正觀寺遺跡〔21〕などがあるがその分布は散漫である。このうち日高遺跡では浅間C軽石下の水田跡が確認されており、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて継続して営まれた水田と捉えられている。

古墳時代になると本遺跡周辺の区域は県内でも中心的な地域であったことが窺われる。それを示すものとして総社古墳群が挙げられ、古墳時代後期・終末期に至り、王山古墳〔7〕、二子山古墳〔12〕、愛宕山古墳〔10〕、宝塔山古墳〔13〕、蛇穴山古墳〔8〕などの首長墓が多数築造された。この時期の集落は牛池川と染谷川に挟まれた台地上に展開しているが、前期~中期の集落は散見される程度で、後期からの集落増加が看取できる。

奈良・平安時代に至ると、本遺跡周辺は上野国府、国分寺〔2〕、国分尼寺〔3〕、山王庵寺〔4〕の建設に示されるように古代の政治・経済・文化の中心地として再編成される。

上野国府は本遺跡付近の区域におよそ900m四方に推定され、関連遺跡として元総社小学校校庭遺跡〔14〕、元総社寺田遺跡〔43〕、元総社宅地遺跡〔55〕などがある。元総社小学校校庭遺跡では県下最大級の掘立柱建物跡が検出され、元総社寺田遺跡では「國厨」・「曹司」・「國」・「邑厨」などの墨書き土器や人形が出土している。また元総社明神遺跡〔24〕では南北方向の溝跡、閑泉橋遺跡〔25〕や元総社蒼海遺跡群〔7〕〔9〕〔10〕では東西方向の溝跡が確認され、国府城の東北外郭線が想定された。周辺遺跡からは円面鏡や綠釉陶器、遙方（腰帶具）なども出土しており、国府を考える上で貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代から部分的な発掘調査が進められるようになった。昭和55年以降には本格的な調査が始まり、主要伽藍の礎石、築垣、堀などが確認されている。国分尼寺は昭和44・45年のトレンチ調査により伽藍配置が推定され、その後平成12年度に前橋市埋蔵文化財発掘調査団により南辺での寺域確認調査が行われた。調査の結果、南東・南西隅の築垣と、それに平行する溝跡や道路状遺構などが確認されている。関連遺跡として中尾遺跡〔17〕で神社遺構、鳥羽遺跡〔20〕で工房跡が確認され、上野国分僧寺・尼寺中間地域〔22〕では大規模な集落・掘立柱建物跡群が検出されている。

山王庵寺は昭和3年に日枝神社境内が「山王塔址」として国指定史跡となり、その後昭和49~56年にかけて7次にわたる本格的な発掘調査が行われた。この調査で金堂の検出および「放光寺」範書の平瓦出土により山王庵寺が「山ノ上碑」「上野国交替実録帳」にみられる「放光寺」であることが有力視されるようになった。平成9~11年の調査でも土坑から大量の塑像が出土し、平成18・19年度調査では北・東・西面、平成20年度調査では南面の回廊を検出している。さらに平成21年度調査では「推定門」と「西側南側回廊」の周辺部が、平成22年度調査では北西隅の回廊と接するように「基壇建物跡」と「北方建物群」が確認されている。なお、この

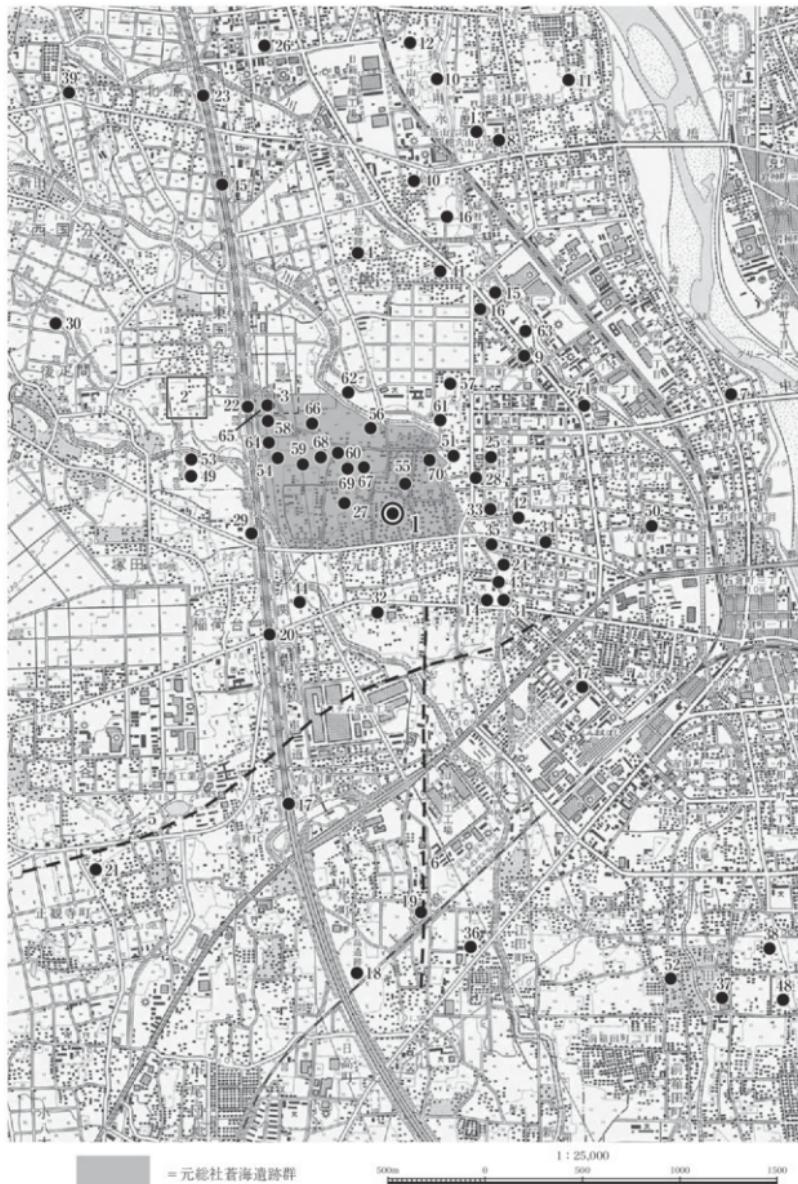


Fig. 2 周辺遺跡図

Tab. 1 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	調査年度	時代・主な遺構・出土遺物
1	元村東古墳群(327, 58, 299)	2013	平安
2	上野四分星古墳(後世墓)	1980-89	古墳・後世墓群・陪塚
3	上野四分星古墳	1999	古墳・石碑・石室・石棺
4	(下)城寺寺跡	1994	古墳・横穴式・假石室・後世墓群・陪塚
5	東山古墳(後史)	-	-
6	甘西古墳(後史)	-	-
7	王の古墳	1972	古墳・前方後円墳(6c中)
8	船岡の古墳	1975	古墳・方墳(7c末)
9	福岡の古墳	1968	古墳・円墳(6c後半)
10	愛宕の古墳	1990	古墳・円墳(7c前半)
11	道見の古墳	未調査	古墳・前方後円墳(5c末)
12	越木(子)の古墳	未調査	古墳・前方後円墳(6c末)
13	宝山古墳	-	-
14	元村村小学校跡遺跡	1962	平安・掘立柱建物跡・柱穴群・陶器
15	南郷通路遺跡	1966	平安・日式路
16	南郷通路遺跡	-	平安・日式路
17	中尾通路(事業用)	1970	平安・平成・日式路
18	自然通路(事業用)	1977	古墳・大通路・石列構造基・柱状柱・木製柵柱・平安・条案木川跡
19	自然通路(駅前)	(1976)	古墳・大通路
20	鳥羽通路(事業用)	1978-82	大通・日式路・廻水路・丸舟・平安・往來路・蹴立柱建物跡(神社跡)
21	鳥羽通路(高崎市)	1979-81	古墳・日式路・石列構造・丸舟・平安・往來路・蹴立柱建物跡・少量土器
22	上野四分星・足守中間地(事業用)	1980-83	平安・日式路・配石構造・生糸・往來路・有机构造基・古墳・往來路
23	北河通路(桜町)	1982	河内・上野・石束着構・古墳・木枕構・後代・平安・日式路・蹴立柱建物跡・道路状遺構
24	元村町明神通(一ノ矢)	1982-96	古墳・日式路・木列構造・廻水路・丸舟・平安・往來路・廻水路・中後・往來路・廻水路
25	御所町通路	1993	古墳・日式路・通路
26	船木通路・玉置路	1985, 1988	古墳・平安・日式路・廻水路
27	豊作通路	1994	古墳・日式路・平安・往來路・中後・井戸跡
28	開田林地通路	1995	古墳・日式路・丸舟・平安・廻水路
29	南町村東古墳(南丸町)	1995	平安・日式路
30	南町通路(1-1番(青瓦町))	1995-87	古墳・日式路・丸舟・平安・往來路・中後・道路状遺構
31	今音通路	1996	平安・通路
32	火神社通路・玉置路	1996, 88	古墳・平安・日式路
33	船木通路・玉置路	1996, 95	古墳・日式路・平安・往來路・中後・廻水路・石乳池
34	堀越通路	1997	古墳・平安・日式路・廻水路
35	大久保船塗・玉置路	1997	古墳・日式路・平安・往來路・廻水路・地下水・土坑
36	櫛只通路	1997	平安・大通路
37	村波通路	1997	平安・廻水路・木列構
38	五反田通路	1997	平安・大通路
39	照門日式路	1998	河内・日式路・平安・往來路・廻水路
40	村東通路	1998	丸舟・日式路・廻水路・丸舟・平安・往來路・中後・廻水路
41	足守今音通路・玉置路	1998	古墳・平安・日式路
42	御所丘通路	1998	平安・日式路
43	元村町通路(1-1番(青瓦町))	1998-99	古墳・木列構・廻水路・丸舟・平安・往來路・中後・蹴立柱建物跡・地下式土坑・廻水路
44	照門日式路	1999	平安・日式路
45	御所町通路(玉置路)	1999, 95	古墳・日式路・平安・日式路
46	四分星玉置路	1999	古墳・日式路・丸舟・平安・往來路
47	四分星玉置路(南丸町)	1999	古墳・日式路・丸舟・平安・往來路・中後・廻水路
48	大和動遷通(1-1番)	1999-2000	河内・日式路・古墳・往來路・丸舟・平安・往來路・蹴立柱建物跡・地下式土坑・廻水路
49	元村林地通路	1999	河内・平安・日式路・廻水路
50	五反田玉置路	1999	平安・日式路
51	大火谷地通路	1999	古墳・日式路
52	御所町南西通路	1999	古墳・廻水路・平安・日式路
53	元村町西古墳通路(事業用)	2000	古墳・日式路・丸舟・丸舟・平安・往來路・廻水路・中後・廻水路
54	元村町小学校通路	2000	古墳・日式路・古墳・往來路・丸舟・平安・往來路・中後・蹴立柱建物跡・廻水路
55	元村林地通路(1-23)シンチ	2000	古墳・日式路・平安・往來路・廻水路・丸舟・日式路・廻水路・丸舟・日式路・丸舟・往來路
56	元村町小内玉置路	2001	古墳・日式路・廻水路・丸舟・平安・往來路・蹴立柱建物跡・廻水路
57	御所町小内玉置路	2001	古墳・平安・日式路・廻水路・丸舟・平安・往來路
58	御所町小内玉置路(西古通路)	2001	古墳・平安・日式路・廻水路・丸舟・平安・往來路
59	御所町小内玉置路(玉置路)	2001	古墳・日式路・廻水路・丸舟・平安・往來路
60	御所町小内玉置路	2002	古墳・平安・日式路・廻水路・蹴立柱建物跡・廻水路・中後・上層墓
61	御所町小内玉置路(西古通路)	2002	古墳・日式路・丸舟・平安・往來路・廻水路
62	御所町開祖神社玉置路	2002	河内・日式路・古墳・往來路
63	元村村北通路(事業用)	2002-04	古墳・日式路・丸舟・平安・日式路・廻水路・中後・蹴立柱建物跡・中後・廻水路
64	御所町御所通路(事業用)	2003	古墳・日式路・丸舟・平安・往來路・廻水路・蹴立柱建物跡・中後
65	元村町小内玉置路	2003	河内・日式路・古墳・往來路・丸舟・平安・往來路・中後・廻水路
66	御所町小内玉置路	2003	古墳・日式路・古墳・往來路・丸舟・平安・往來路・中後・廻水路
67	元村町小内玉置路	2003	古墳・平安・日式路・廻水路・中後・廻水路
68	元村町小内玉置路	2004	古墳・日式路・古墳・往來路・丸舟・平安・往來路
69	元村町小内玉置路	2004	古墳・平安・日式路・中後・廻水路

寺の塔心礎や石製鷲尾、根巻石などの石造物群は宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術によるものと考えられており、仏教文化と古墳文化とが併存しながら機能していた様子が窺える。

また本遺跡の南約15kmにはN-64°-E方向に東山道(国府ルート)が、日高遺跡[19]では幅約4.5mの推定日高道が国府方向へ延びると推定されている。これらは当時の交通網を物語る重要な遺構である。

当該期の一般的な集落は、古墳時代と同様に牛池川と染谷川に挟まれた台地上に立地するが、国府推定域の中心部での分布は少なく、国府城と居住域の区分けが看取できる。近年の調査による元社跡海道跡群（41）では、鍛冶工房が検出され、金の付着した灰釉陶器や奈良三彩といった貴重な遺物が出土している。対照的に、集落の分布は多いものの本道跡周辺での生産遺跡の分布は希薄なものとなっている。

室町時代になると上野国守護上杉氏から守護代に任命された長尾氏が蒼海城を本拠地としこの地を治めた。元総社蒼海遺跡群では蒼海城の堀跡や、南宋~元時代の青白磁梅瓶が出土している。また本遺跡周辺には屋敷に堀を巡らした城館跡が数多く認められる。天正年間以降は諂訪・秋元氏が蒼海城に入り当地の領主となるが、秋元氏が総社城に移ると同時に蒼海城は廢城となった。また、当該期の周辺遺跡では大渡道場遺跡【71】の貨幣理納遺構から572枚に及ぶ銭貨が燃紐を通した「繩」の状態で六絆出土した。

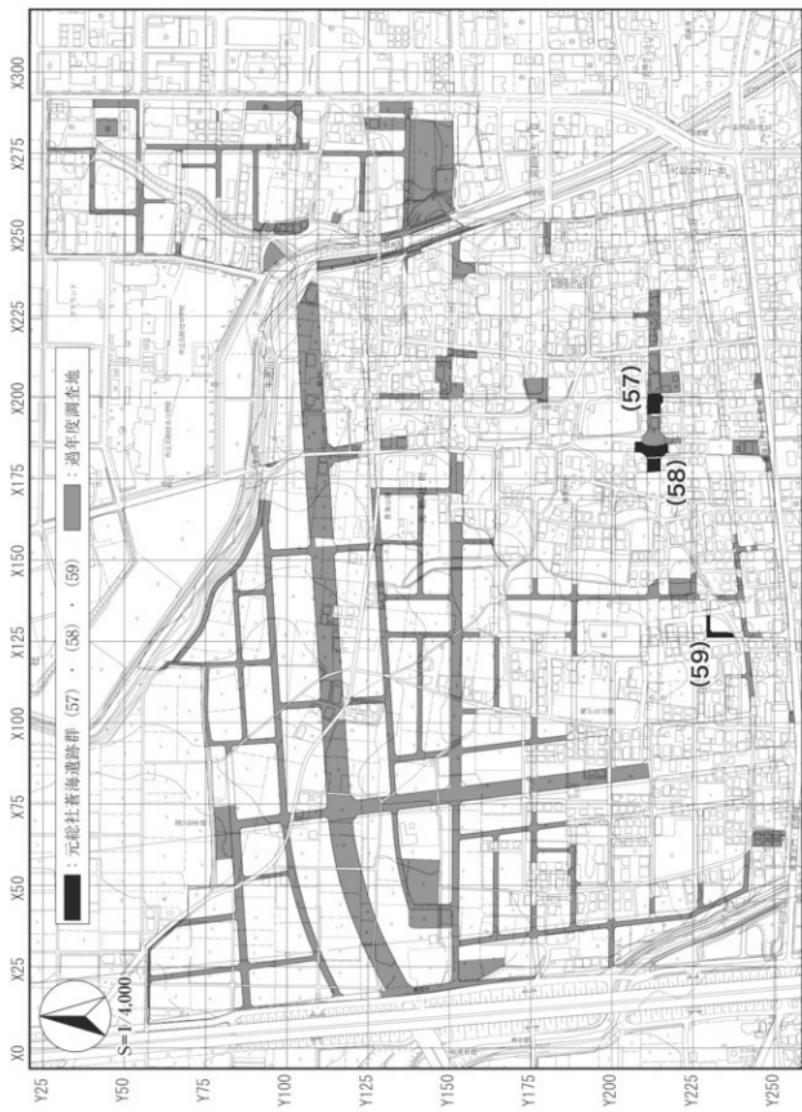


Fig. 3 元總社着海遺跡群位置図とグリッド設定図

### III 調査の方針と経過

#### 1 調査範囲と基本方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社着海地区画整理事業の道路予定地であり、調査面積は(57) 330 m<sup>2</sup>、(58) 700 m<sup>2</sup>、(59) 270 m<sup>2</sup>である。グリッド座標については国家座標（日本測地系第IX系）X = 44000.000、Y = - 72200.000を基点とする4 mピッチのものを使用し、経線をX、緯線をYとして北西隅を基点に番付して呼称とした。各調査区の公共座標は次のとおりである。

測点	日本測地系（第IX系）	世界測地系（第IX系）
(57) X 195、Y 213	X = 43148.000 m、Y = - 71420.000 m	X = 43502.912 m、Y = - 71711.765 m
(58) X 177、Y 208	X = 43168.000 m、Y = - 71492.000 m	X = 43522.912 m、Y = - 71783.764 m
(59) X 126、Y 229	X = 43084.000 m、Y = - 71696.000 m	X = 43438.915 m、Y = - 71987.762 m

発掘調査は遺構確認面まで重機（025 パックホー）にて表土掘削を行ない、遺構確認、遺構掘り下げ、遺構精査、測量・写真撮影の手順で実施した。遺構調査については土層の堆積状況を確認するため、土層ベルトを適宜設定した。なお、出土遺物に関しては、床面直上や遺構に伴うと判断したものはNo遺物とし、他の覆土中の破片等については一括遺物として取り上げた。

遺構の記録には、図面作成はトータルステーション・電子平板を用いての測量・編集を行ない、断面図については一部オルソフォトに変換して編集を行なった。記録写真は35mmモノクロ・リバーサル、デジタルカメラの3種類を用いて撮影し、調査区全景撮影についてはラジコンヘリコプターおよび高所作業車での撮影を実施した。

#### 2 調査経過

発掘調査は(57)・(58)の表土掘削を平成25年11月26日から12月2日まで、(59)を12月17日から18日に実施した。表土掘削以降、順次調査を進め、12月25日に(59)での全景撮影を高所作業車にて行ない、平成26年1月15日に(57)・(58)においてラジコンヘリコプターで全景撮影を実施した。その後、1月31日までに埋め戻しおよび撤収作業を完了し、現地での発掘調査を終了した。2月1日より本格的に出土遺物・図面・写真等の整理作業および報告書作成を実施した。

### IV 基本層序

各調査地点において、比較的良好に土層の堆積状況を確認できる場所で基本層序とした。(57)・(58)に関しては周辺遺跡で見られるAs-B・C混土層などは確認できず、総社砂層面が遺構確認面となっており、上部はかなりの削平を受けているものと考えられる。各調査区での遺構確認面は(57)がⅡ層上面、(58)がⅢ層上面、(59)がⅢ層上面である。



Fig.4 基本層序

元總社舊海跡群 (57)



Fig. 5 元總社舊海跡群 (57) 全体図

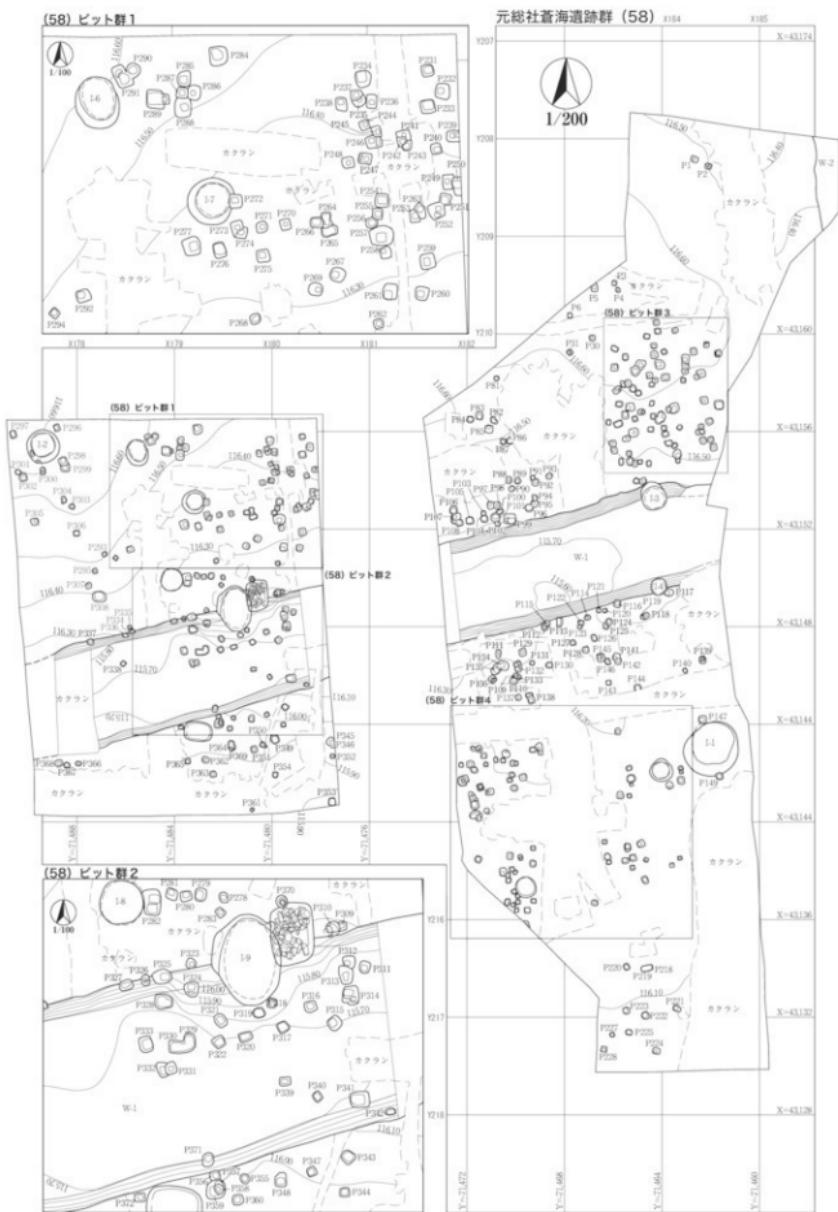


Fig. 6 元總社舊海遺跡群 (58) 全體圖

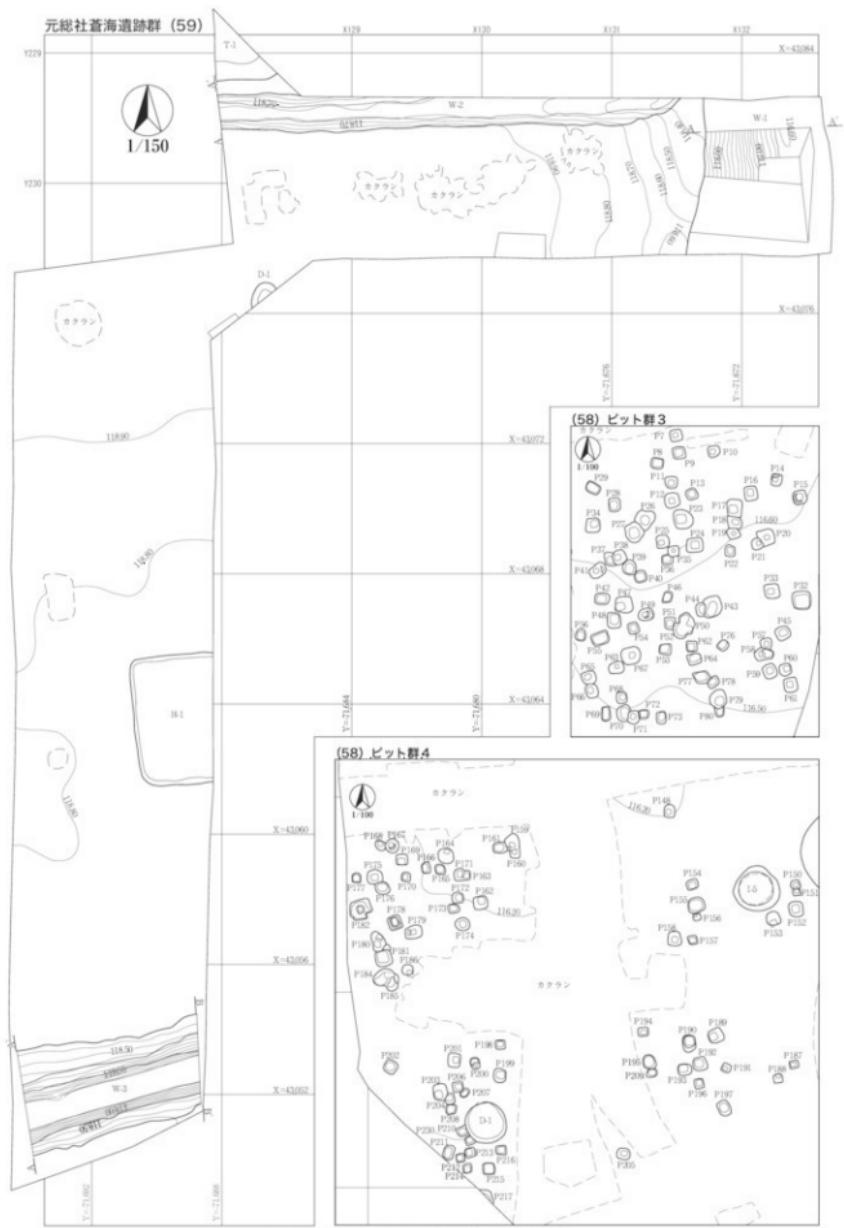


Fig. 7 元總社舊海遺跡群(58)、(59) 全体図

## V 遺構と遺物

### 1 元総社蒼海遺跡群（57）

#### (1) 溝跡

##### W-1号溝跡 (Fig. 5・8・11, PL. 1・7)

位置 X 195～200、Y 214 主軸方向 N-89°-W 規模 長さ (22.45) m、上幅 1.24～228 m、下幅 0.26～0.71 m、深さ 0.38～122 m。 形状等 西から東に走行し、断面は台形状を呈するが東端周辺では底面向かってオーバーハングする箇所も見られる。また、X 199 付近に土橋状の高まりが認められ、X 197 付近では 0.5 m 前後の段差が確認できる。段差より西では幅・深さともに規模を大きく減ずる。覆土中には土器を埋め戻したと思われる土層の堆積が認められる。重複 W-2・3・X-1、D-2・3 と重複し、新旧関係は X-1→W-2・3→本遺構→D-2・3 である。出土遺物 覆土中より須恵器、土師器、陶磁器類、石製品が出土しており、かわらけ（1・2）、石臼（3・4）を図示。時期 規模・形状から蒼海城の堀と考えられ、出土遺物や既往の発掘調査の成果等から 15 世紀後半と想定される。備考 『元総社蒼海遺跡群（23）』24 地点 W-5 号溝跡と同一遺構。

##### W-2号溝跡 (Fig. 5・8・11, PL. 1・7)

位置 X 195、Y 213・214 主軸方向 N-1°-W 規模 長さ (5.46) m、上幅 1.04 m、下幅 0.76 m、深さ 0.08 m。形状等 南北方向に走行し、断面は U 字形を呈する。重複 W-1、D-1、I-1 と重複し、本遺構が最も古い遺構である。出土遺物 須恵器、土師器が出土し、底面直上で出土した須恵器（1）、土師器坏（2）を図示。時期 出土遺物、重複関係から中世以前と考えられる。

##### W-3号溝跡 (Fig. 5・8, PL. 1)

位置 X 197・198、Y 213・214 主軸方向 N-8°-W 規模 長さ (1.87) m、上幅 2.04 m、下幅 0.48 m、深さ 0.09 m。形状等 南北方向に走行し、断面は台形を呈する。重複 W-1、X-1 と重複し、新旧関係は本遺構→X-1→W-1 である。出土遺物 須恵器、土師器が数点出土しているが、小破片のため図示には至らず。時期 出土遺物が少なく判然としないが、重複関係や覆土の堆積状況等から W-2 号溝跡と同じく中世以前の遺構と想定される。

#### (2) 性格不明遺構

##### X-1 (Fig. 5・8・11, PL. 1・7)

位置 X 195～197、Y 213・214 主軸方向 N-11°-W 規模 東西軸 (7.98) m、南北軸 (4.91) m、深さ 0.21 m。形状等 平面不整形な楕円形を呈し、南半側は W-1 号溝跡により欠いている。覆土は全体的に鉄分が沈着しており極めて堅密である。重複 W-1～3、D-1・2、I-1・4 と重複し、新旧関係は W-2・3→本遺構→W-2→D-1・2 である。出土遺物 須恵器、土師器、灰釉陶器、陶磁器類が出土し、底面直上から出土した須恵器高盤（1）と土師器坏（2・3）を図示。また、本遺構では複数の獸骨が出土しており、これらの獸骨については宮崎重雄氏に鑑定を仰いだ。詳細は後に掲載するが、出土状況から一般的な廃棄とは異なる状況が指摘されている。時期 出土遺物・重複関係から 11 世紀以降、W-1 号溝跡が開削される 15 世紀以前の遺構と思われる。

#### (3) 井戸跡、土坑、ピット (Fig. 5・8～11, PL. 2・7)

本調査区では井戸跡 4 基、土坑 3 基、ピット 103 基を確認している。各計測値については「Tab. 4 元総社蒼海遺跡群（57） 井戸・土坑・ピット計測表」を参照のこと。

W-1~3・X-1

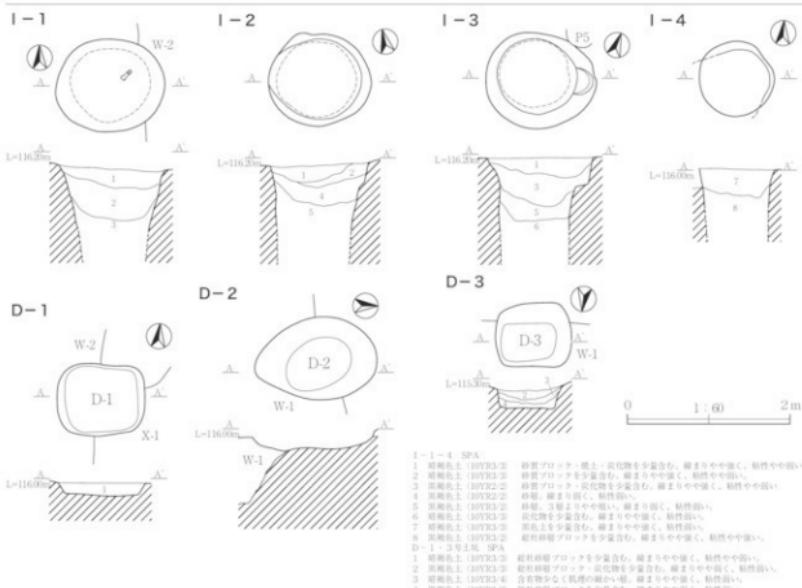
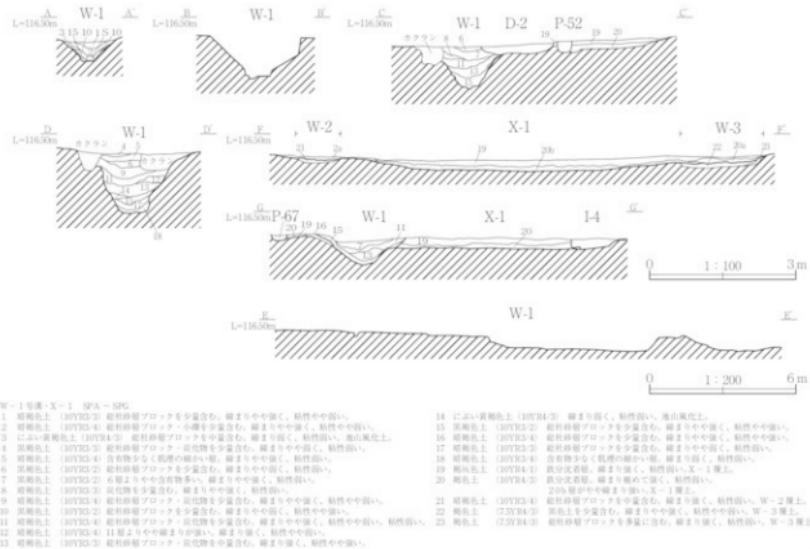


Fig. 8 元紹社蒼海遺跡群 (57)W=1~3号遺跡、X=1、井戸跡・土塁

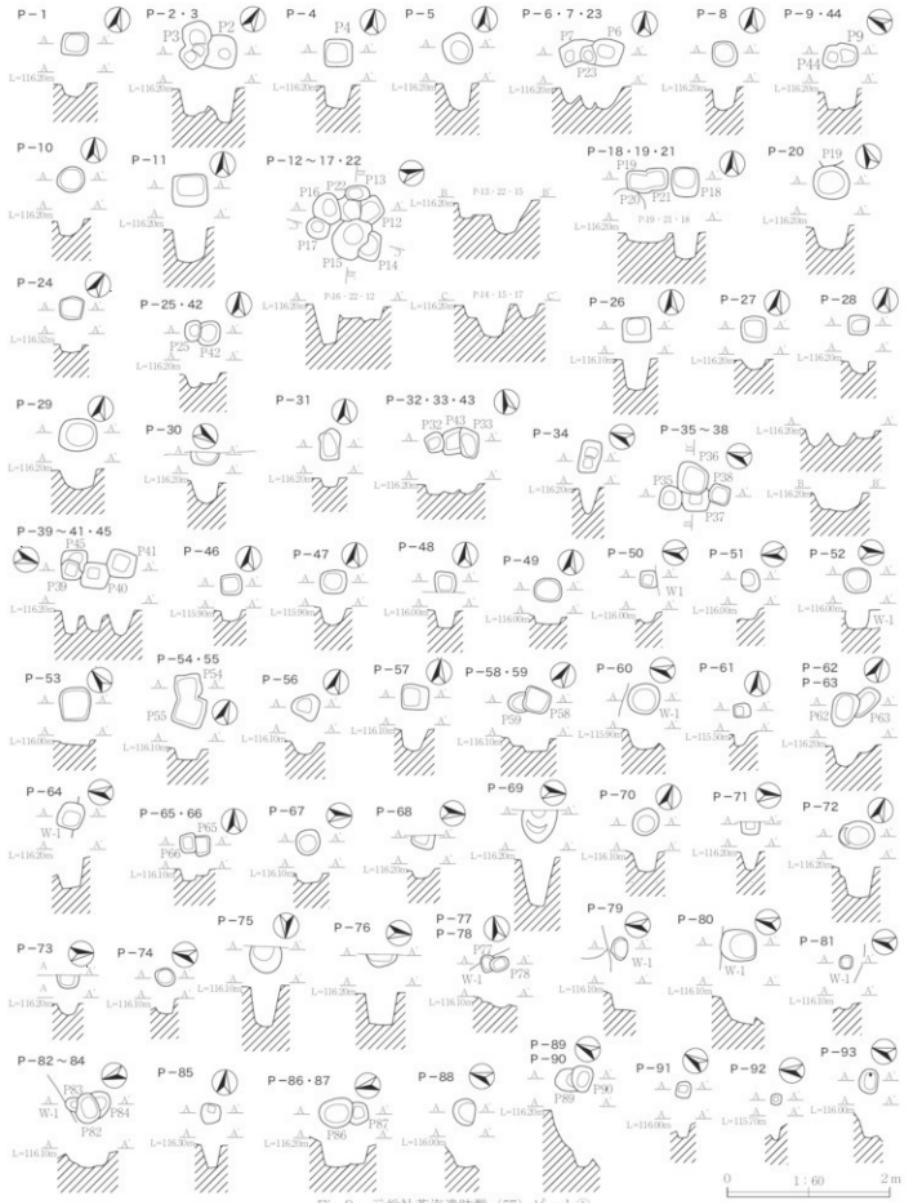


Fig. 9 元総社蒼海遺跡群(57) ピット①

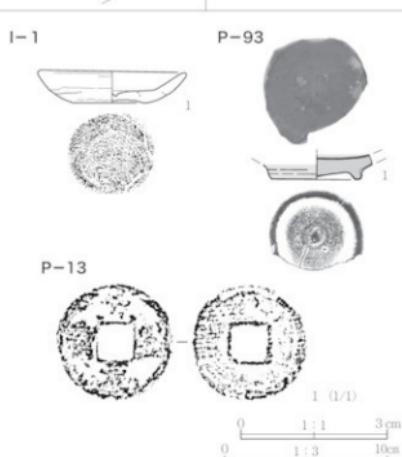
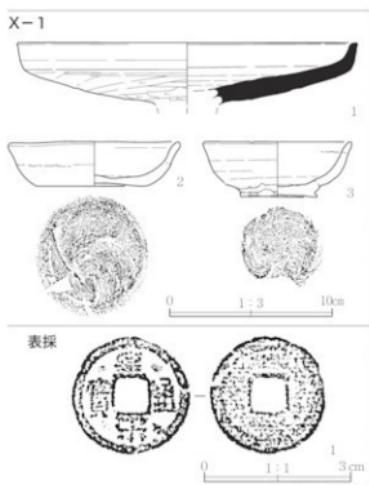
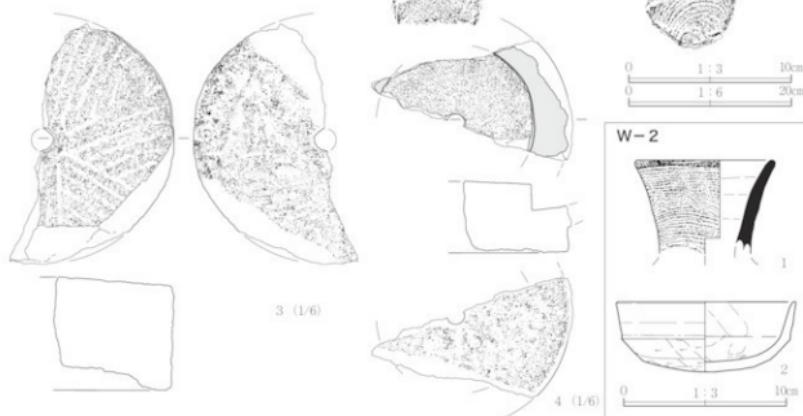


Fig. 11 元總社蒼海遺跡群 (57) 出土遺物

Tab. 2 元総社蒼海遺跡群（57）出土遺物観察表

W - 1

No.	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	周廻灰土	手打け縁	8.82	5.8	23	黄・赤褐色、 灰白	良好	灰褐色	内輪に輪郭線があり、 外輪に輪郭線があり。底付部に作業痕あり。	1/2残存。
2	周廻灰土	手打け	7.9	5.2	23	白・黑・赤褐色	良好	灰褐色	内輪に輪郭線があり、 外輪に輪郭線があり。底付部に作業痕あり。	完存。
No.	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	石質	焼成	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	周廻灰土	小輪足 鉢形口	10.05	10.41	12.0	鐵製輪足と鉢形口	—	—	172.90	残り約1/2。
2	周廻灰土	小輪足 鉢形	10.40	10.30	8.6	鐵製輪足と鉢形口	—	—	200.65	1/2以上は（黒い部分）。

W - 2

No.	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	周廻灰土	筒形容 長縫目	8.41	—	18.6	白・黒色相間	良好	灰褐色	内輪に輪郭線があり、外輪に輪郭線があり。底付部に作業痕あり。	1/2残存。
2	周廻灰土	筒形容	9.0	—	4.3	黄・赤褐色	良好	褐色	内輪に輪郭線があり、外輪に輪郭線があり。底付部に作業痕あり。	1/2以上は残存。

X - 1

No.	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	周廻灰土	筒形容 長縫目	8.41	—	18.6	白・黒色相間	良好	灰褐色	内輪に輪郭線があり、外輪に輪郭線があり。底付部に作業痕あり。	1/2残存。
2	周廻灰土	筒形容	9.0	—	4.3	黄・赤褐色	良好	褐色	内輪に輪郭線があり、外輪に輪郭線があり。底付部に作業痕あり。	1/2以上は残存。
3	周廻灰土	筒形容	9.0	—	4.7	3.2	白・黒・赤褐色 灰白、灰黒色	焼成	内輪に輪郭線があり、外輪に輪郭線があり。底付部に作業痕あり。	1/2以上は残存。

1 - 1

No.	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	周廻灰土	手打け縁	8.9	4.6	20	白・黒・赤褐色 灰白	良好	灰褐色	内輪に輪郭線があり、外輪に輪郭線があり。底付部に作業痕あり。	1/4残存。

P - 13

No.	出土位置	種別名	初期年代	材質	外径 (mm)	穿径 (mm)	厚さ (mm)	重量	現存状況・備考
1	廻天	廻天縁	1020 年	陶	23.65	7.30	1.00	1.9	完存。

P - 93

No.	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	廻天	直筒 縁	—	5.4	11.0	白・黒色相間	良好	褐色	内輪に輪郭線があり、外輪に輪郭線があり。底付部に作業痕あり。	1/2以上は残存。

造構外

No.	出土位置	種別名	初期年代	材質	外径 (mm)	穿径 (mm)	厚さ (mm)	重量	現存状況・備考
1	造構外	直筒縁	1020 年	陶	25.55	7.00	1.00	2.5	完存。

## 2 元総社蒼海遺跡群（58）

### (1) 溝跡

W - 1号溝跡 (Fig.12・20, PL. 3・8)

位置 X 93, Y 162～172 主軸方向 N - 75° - E 規模 長さ(29.76)m、上幅4.26m、下幅3.12m、深さ0.71m。

形状等 南西から北東に走行し、断面は箱形を呈する。底面は平坦であり、傾斜はほとんど見られない。土層観察からも湛水の痕跡は見られず、底面も平坦なことから、長期にわたって管理されていた様子が指摘されている。重複 I - 3・4・9、D - 2、ピットと重複し、いずれの造構よりも古い。出土遺物 須恵器・土師器・灰釉陶器等が出土し、須恵器壺（1）、土師器壺（2・3）、灰釉陶器段皿（4）、羽釜（5）を図示している。時期 出土遺物や覆土の堆積状況等から古代と想定され、10～11世紀代には機能を停止したものと推測される。備考 出土遺物の時期や規模・形態から、上野国府に関連する可能性が高い造構である。

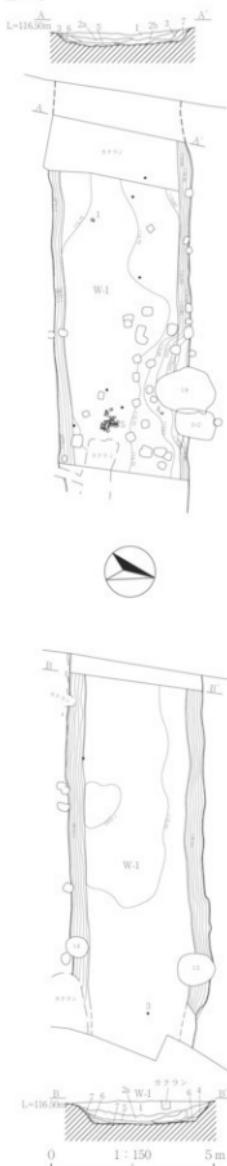
W - 2号溝跡 (Fig.12・21, PL. 4・8)

位置 X 184, Y 208 主軸方向 N - 4° - W 規模 長さ(3.86)m、上幅(0.98)m、深さ1.53m。形状等 南北方向に走行する。調査区外に伸びるため掘底の検出に至らず、断面形態は不明である。出土遺物 須恵器・土師器・陶器類等が出土しているが、小破片のため図示には至らず。石製品として板片（1）を1点掲載する。時期 規模・形状等から蒼海城に関連する壠の一部と想定され、15世紀後半～17世紀前半の時期と考えられる。備考 主要部分は調査区外になり、また近隣にブロック塀があるため、安全性を考慮しトレント調査のみとした。なお、検出位置・走行方向から「元総社蒼海遺跡群（23）」25・26地點W - 1号溝跡と同一造構と考えられる。

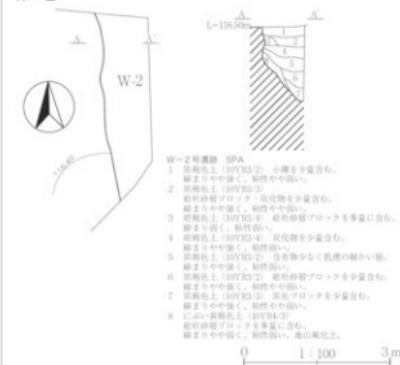
### (2) 井戸跡・土坑・ピット (Fig. 6・7・12～19・21, PL. 4・5・8)

今回の発掘調査では井戸9基、土坑3基、ピット369基を確認している。各計測値については「Tab. 5 元総社蒼海遺跡群（58） 井戸・土坑・ピット計測表」を参照のこと。

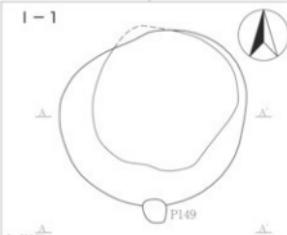
W-1



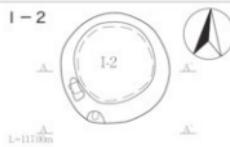
W-2



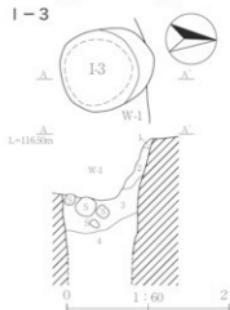
I-1



I-2



I-3



L=116.00m

1-1号溝跡 SPA

1 にぶい 黒褐色土 (10YR3/2) 細粒砂層ブロック・小塊を少量含む。締まりやや固く、粘性弱い。

2 黒褐色土 (10YR3/2) 細粒砂層ブロックを多量に含む。締まりやや固く、粘性弱い。

3 黑褐色土 (10YR3/2) 細粒砂層ブロックを多量に含む。締まりやや固く、粘性弱い。

4 黑褐色土 (10YR3/2) 細粒砂層ブロックを多量に含む。締まりやや固く、粘性弱い。

5 黑褐色土 (10YR3/2) 細粒砂層ブロックを多量に含む。締まりやや固く、粘性弱い。

6 黑褐色土 (10YR3/2) 細粒砂層ブロックを多量に含む。締まりやや固く、粘性弱い。

7 黑褐色土 (10YR3/2) 細粒砂層ブロックを多量に含む。締まりやや固く、粘性弱い。

8 黑褐色土 (10YR3/2) 細粒砂層ブロックを多量に含む。締まりやや固く、粘性弱い。

9 黑褐色土 (10YR3/2) 細粒砂層ブロックを多量に含む。締まりやや固く、粘性弱い。

10 にぶい 黑褐色土 (10YR3/2) 細粒、締まりやや弱い、粘性弱い。

11 にぶい 黑褐色土 (10YR3/2) 細粒砂層土の充填、締まりやや弱く、粘性弱い。

12 黑褐色土 (10YR3/2) 細粒砂層土に充填、締まりやや弱く、粘性弱い。

1-2号溝跡 SPA

1 黑褐色土 (10YR3/2) 細粒砂層ブロックを多量に含む。締まりやや固く、粘性弱い。

2 黑褐色土 (10YR3/2) 細粒砂層ブロック・花崗岩を少量含む。締まりやや固く、粘性弱い。

3 黑褐色土 (10YR3/2) Asa粘石を含む。締まりやや弱く、粘性弱い。3号柱有孔少量。

1-3号溝跡 SPA

1 黑褐色土 (10YR3/2) 細粒砂層ブロックを多量に含む。締まりやや固く、粘性弱い。

2 黑褐色土 (10YR3/2) 細粒砂層ブロック・花崗岩を少量含む。締まりやや固く、粘性弱い。

3 黑褐色土 (10YR3/2) 細粒砂層ブロック・人頭文理の塊を少量含む。締まりやや固く、粘性弱い。

4 黑褐色土 (10YR4/2) 有孔少々、乳状の塊含む。締まりやや固く、粘性弱い。

Fig.12 元経社蒼海遺跡群 (58)W-1・2号溝跡、I-1～3号井戸

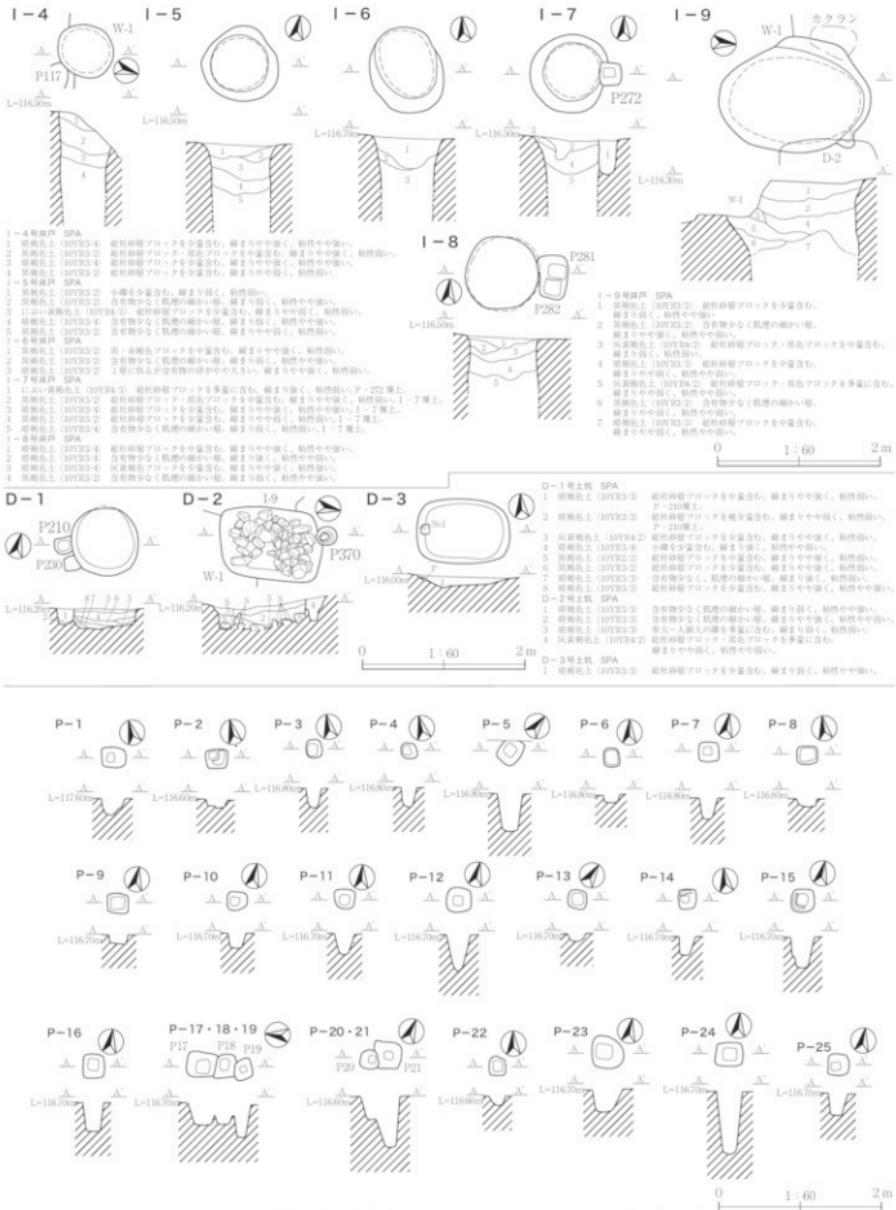


Fig.13 元紺社蒼海遺跡群 (58) I - 4 ~ 9号井戸跡, D - 1 ~ 3号土坑, ピット①

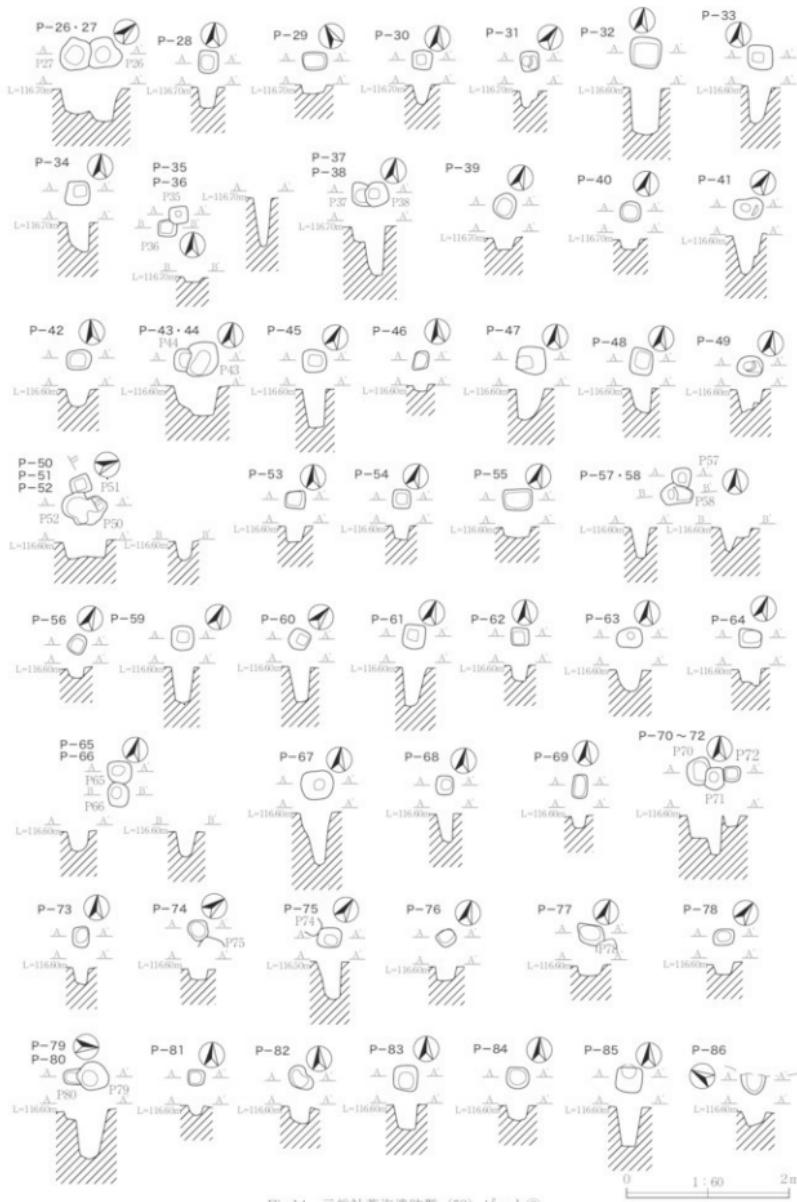


Fig.14 元経社蒼海遺跡群 (58) ピット②

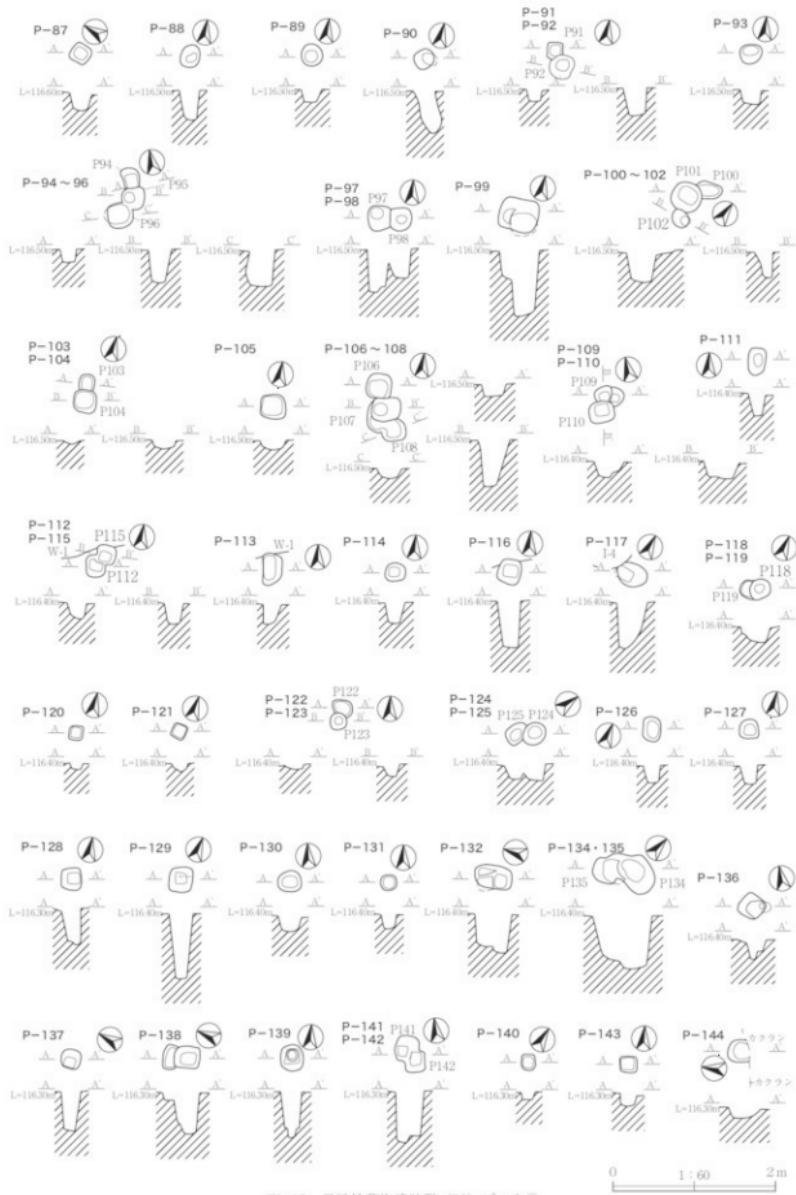


Fig.15 元總社蒼海遺跡群 (58) ピット③

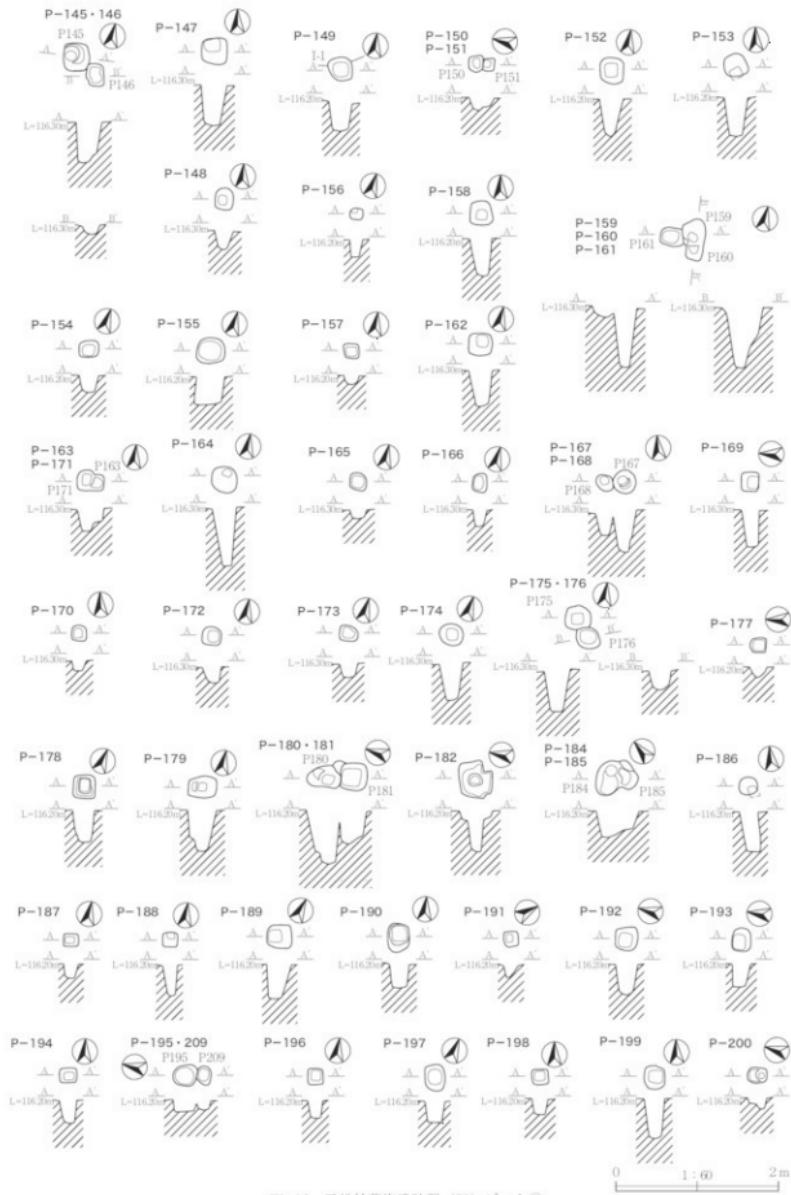


Fig.16 元経社蒼海遺跡群（58）ピット④

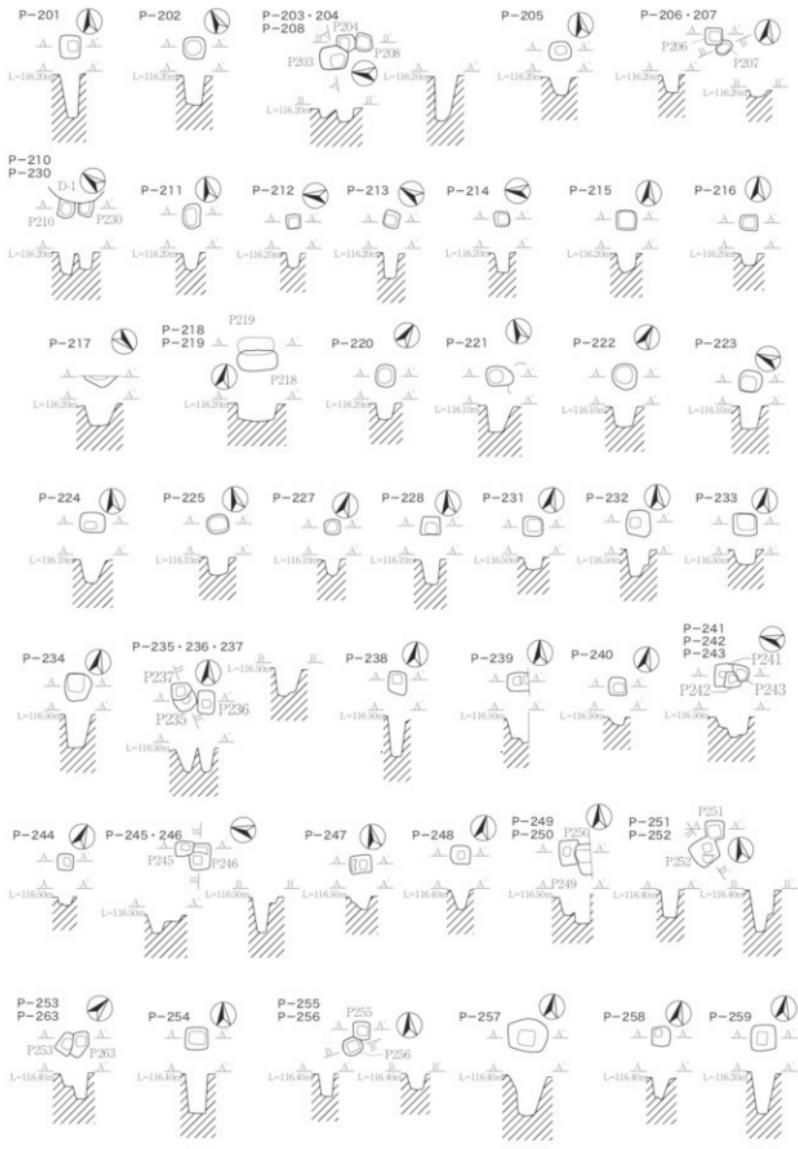


Fig.17 元総社蒼海遺跡群 (58) ピット⑤

0 1 : 60 2m

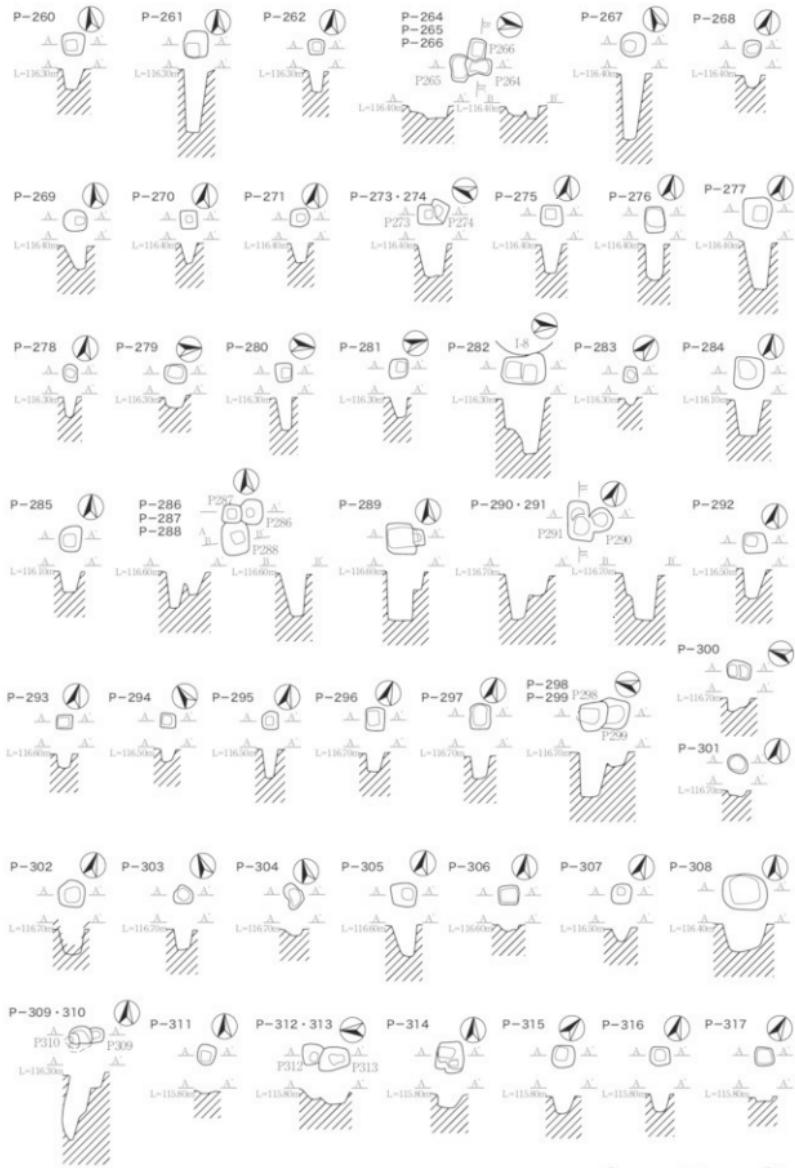


Fig.18 元龜社蒼海遺跡群 (58) ピット⑥

0 1 : 60 2 m

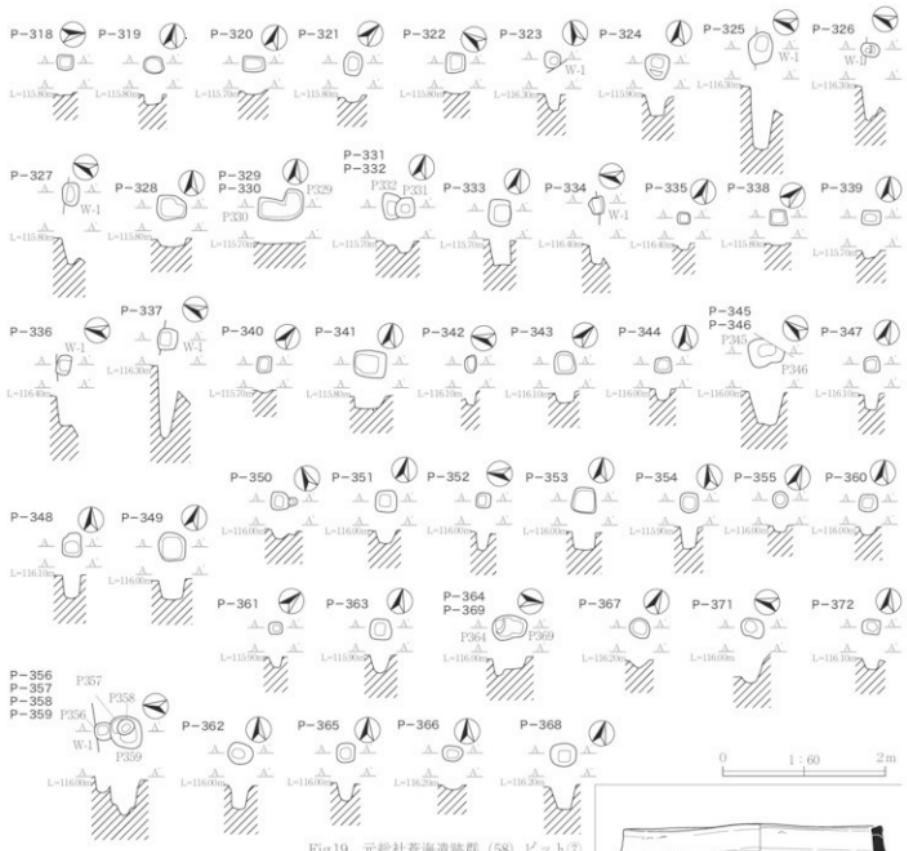


Fig.19 元總社蒼海遺跡群 (58) ピット(?)

W-1

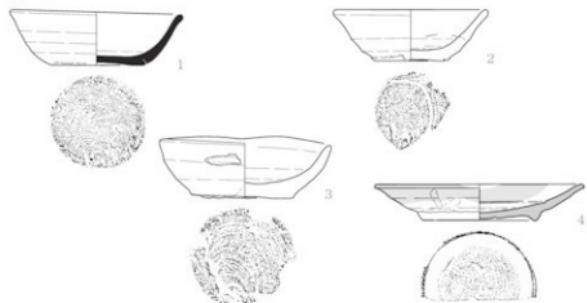


Fig.20 元總社蒼海遺跡群 (58) 出土遺物①



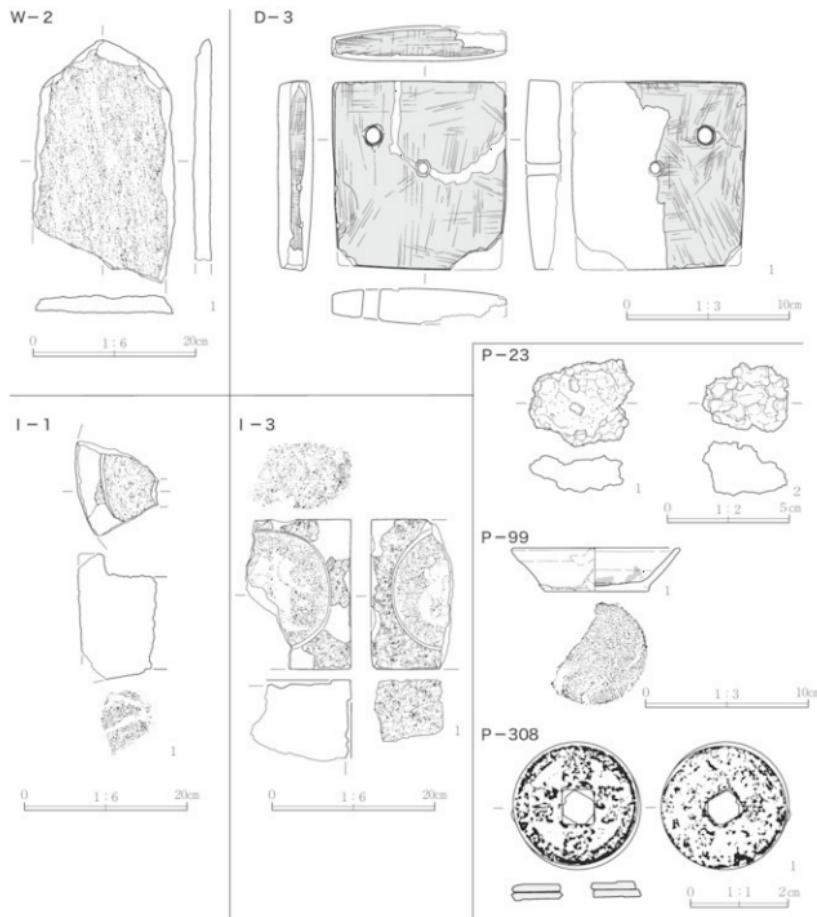


Fig.21 元總社蒼海遺跡群（58）出土遺物観察表②

Table 3 元總社蒼海遺跡群（58）出土遺物観察表

W-1

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	断土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	直立 石器部	石器部	10.0	4.6	3.2	26.0 木炭灰 オキナト	焼成灰	浅黄褐	内側は木炭灰、外側はオキナト。火候は中程度。	1/3破・底堅・3月作。
2	直立灰土	石器部	20.4	14	3.1	19.9 石器部	焼成灰	灰色	内側は暗褐色オキナト、底付部はオキナト。	2-3月作。
3	直立灰土	石器部	20.4	6.2	3.0	19.8 石器部 石器・チーク	高張	褐色	内側は暗褐色オキナト、底付部はオキナト。底堅い。	5-6月作。
4	直立灰土	石器部	22.0	7.0	2.1	19.8 石器部	焼成	灰白	内側は暗褐色オキナト、底付部はオキナト。底堅い。	2-3月作。1/3破・一部に焼付。
5	直立灰土	石器部	22.0	7.8	2.5	19.8 石器部	焼成灰	灰白	内側は暗褐色オキナト、底付部はオキナト。	2-3月作。

W-2

No	出土位置	種別、器種	大きさ	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	直立 石器部	石器部	20.0	17.4	2.1	砂岩質	-	-	36.00	-	1/3破れ。
1	直立 石器部	石器部	-	-	-	砂岩質	-	-	-	-	1/3破れ。

I-1

No	出土位置	種別、器種	大きさ	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	直立 石器部	石器部	-	-	-	砂岩質	-	-	-	-	1/3破れ。

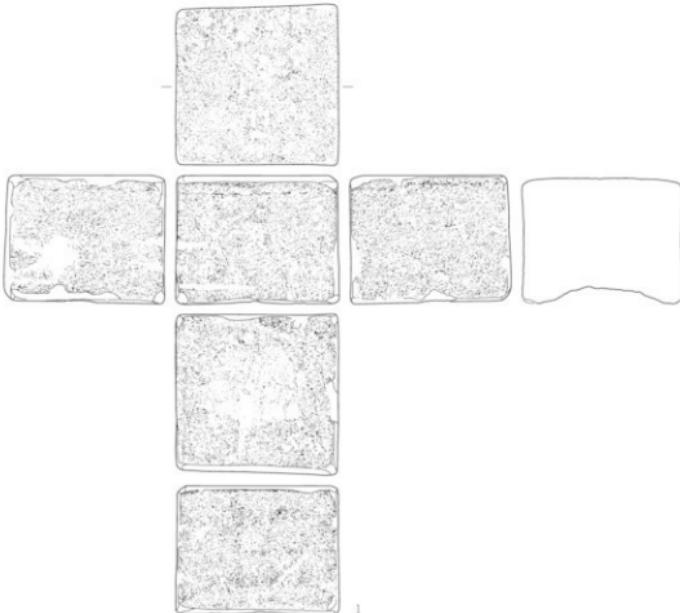


Fig.22 元総社蒼海遺跡群（58）出土遺物③

I - 3

No	出土位置	種別	器種	高さ	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
I	周辺	石類	石塊	18.3	120.0	—	無	—	—	100.0	セドアリ。	丁寧に磨き込まれた石塊。

D - 3

No	出土位置	種別	器種	高さ	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
I	底面(1)	石類	石塊	11.0	107	21.0	透かし磨き面有り	—	—	44.0	表面に多点打痕の施された石塊。 上部を削り落す形で14mm。下部は直径16mmの円柱あり。	表面に手延丸孔。

P - 23

No	出土位置	種別	器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
I	周辺	陶器	片口	36	43	17	—	—	—	25.3	不規則な大きさ。	
I	周辺	陶器	片口	34	24	23	—	—	—	26.3	不規則な大きさ。	

P - 99

No	出土位置	種別	器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
I	周辺	土器	口沿	102	62	22	口: 黒丸點、 底: 灰	—	—	20.3	内側に縦縞模様有り。	丁寧に磨き込まれた土器。

P - 308

No	出土位置	器種名	初詣年代	材質	外径 (mm)	内径 (mm)	厚さ (mm)	重量	現存状況・備考
I	周辺	周辺(308)	900年	陶	20.27	8.00	3.3	23	2枚重ね、丸孔。

遺構外

No	出土位置	種別	器種	高さ	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
I	—	石類	石塊	19.8	262	25.0	—	—	—	100.0	「元萬二年」の表文と「平治2年(明治)」。	立派な石塊か。日本瓦片。 説定の誤認による表記。

### 3 元総社蒼海遺跡群（59）

#### (1) 竪穴住居跡

H - 1号住居跡 (Fig.23, PL. 6)

位置 X 127、Y 233・234 主軸方向 N - 4° - W 規模 東西軸 (2.44) m、南北軸 4.09 m、現壁高 0.17 m。

面積 (8.86) m<sup>2</sup> 床面 ほぼ平坦な地山硬化床で、明確な硬化面は認められない。東半は調査区外となる。

出土遺物 須恵器・土師器・瓦が出土しているが図示には至らず。 時期 出土遺物の傾向から 11世紀代と推察される。

## (2) 壁穴状遺構

### T-1号壁穴状遺構 (Fig.24, PL. 6)

位置 X 127-128、Y 228-229 主軸方向 N - 88° - E 規模 東西軸 (187) m、南北軸 (221) m、深さ 0.39 m。

形状等 大部分が調査区外となるため全体的な平面形態は不明瞭である。住居跡の可能性も考えられるが、立ち上がりは緩やかで出土遺物も僅少のため、壁穴状遺構として扱っておく。 出土遺物 須恵器、陶磁器類が出土しているが、いずれも小破片のため図示には至らず。 時期 形状、重複関係から中世と考えられる。

## (3) 溝跡

### W-1号溝跡 (Fig.24, PL. 6)

位置 X 131-132、Y 229-230 主軸方向 N - 3° - E 規模 長さ (4.79) m、上幅 (3.71) m、下幅 (0.71) m、深さ 1.85 m。 形状等 南北方向へ走行し、東側の立ち上がりは調査区外になり不明であるが、断面形態は薺研掘りを呈するものと思われる。 時期 規模・形状等から蒼海城に関連する施設の可能性が考えられ、15世紀後半～17世紀前半と想定される。 備考 調査区端での検出で道路際であるため、安全性を考慮しトレーンチ調査とした。なお、山崎氏の縄張図に拠ると清徳寺と松本屋敷とされる郭の間を走る堀に当たると思われる。

### W-2号溝跡 (Fig.24, PL. 6)

位置 X 127～131、Y 229 主軸方向 N - 87° - E 規模 長さ (14.24) m、上幅 1.47 m、下幅 0.71 m、深さ 0.21 m。 形状等 南西から北東に走行し、断面は緩やかなU字状を呈する。 出土遺物 須恵器、土師器等が出土しているが図示には至らず。 時期 出土遺物および覆土の堆積状況から 11世紀から12世紀初頭の遺構と想定される。

### W-3号溝跡 (Fig.24, PL. 6)

位置 X 126・127、Y 236・237 主軸方向 N - 78° - E 規模 長さ (5.94) m、上幅 3.26 m、下幅 0.81 m、深さ 0.92 m。 形状等 南西から北東へ走行する。断面は台形を呈する。 出土遺物 須恵器、土師器、陶磁器類、石製品等が出土しているが図示には至らず。また、比較的の残存状況の良好な獸骨を検出している。元総社蒼海遺跡群 (57) のX-1出土の獸骨と共に宮崎氏に鑑定を仰いでいる。 時期 規模・形状等から蒼海城に関連する施設の可能性が考えられ、15世紀後半～17世紀前半と想定される。

## (4) 土坑 (Fig.24)

今回の発掘調査では土坑を1基検出している。計測値については「Tab. 6 元総社蒼海遺跡群 (59) 土坑計測表」を参照のこと。

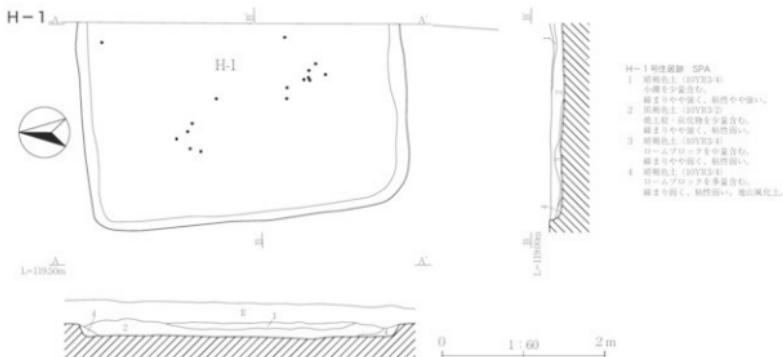


Fig.23 元総社蒼海遺跡群 (59) H-1号住居跡

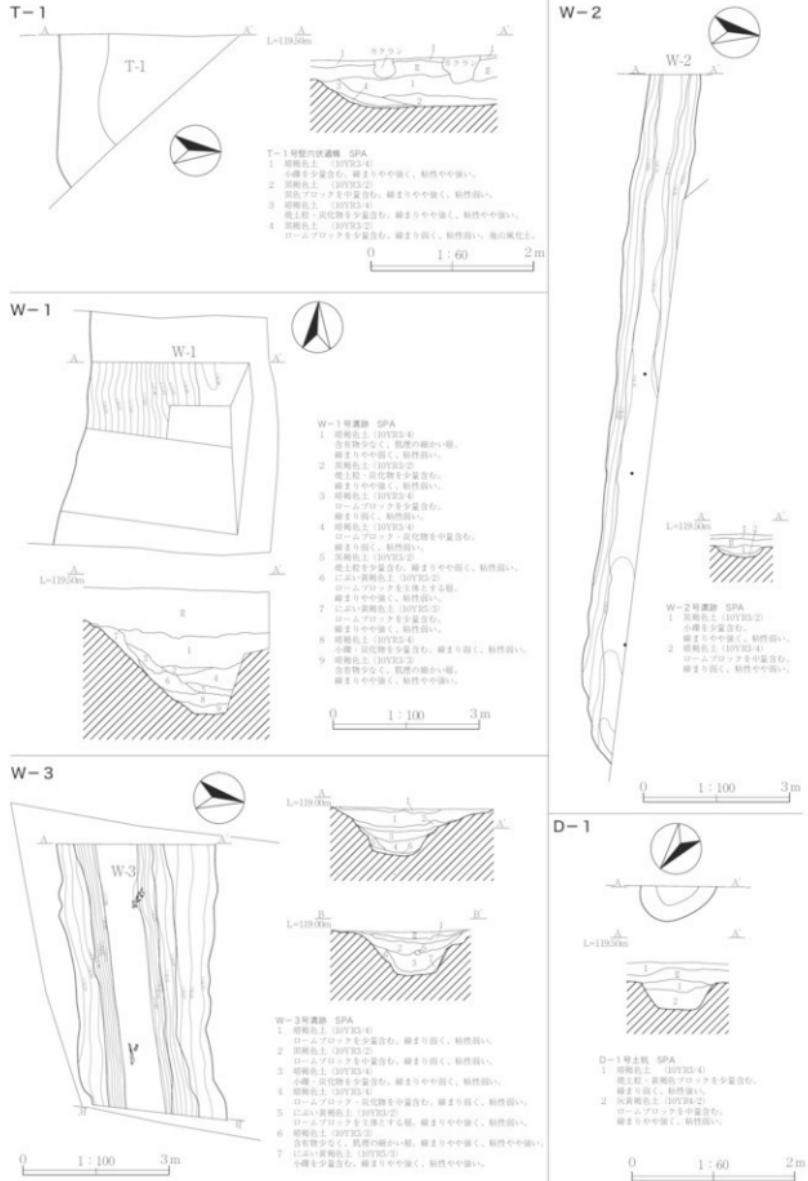


Fig24 元経社海跡群 (59) T - 1号堅穴状遺跡、W - 1 - 3号溝跡、D - 1号土坑

Tab. 4 元禄社着海道跡群(57) 井戸・土坑・ピット計測表

遺構名	位 置	長軸	短軸	深さ	平面形状	遺構名	位 置	長軸	短軸	深さ	平面形状	遺構名	位 置	長軸	短軸	深さ	平面形状
I-1	X306_V225	1.16	1.11	0.60	円形	F-23	X106_V225	0.40	0.26	0.12	直角形	P-48	X306_V223	0.26	0.14	0.12	[直角]
I-2	X306_V226	1.28	1.18	0.60	円形	F-20	X106_V223	0.24	0.22	0.12	直形	P-49	X306_V223	0.20	0.12	0.00	[直角]
I-3	X306_V225	1.20	1.20	0.60	円形	F-23	X106_V223	0.26	0.26	0.12	直角形	P-20	X306_V205	0.26	0.26	0.24	[直角]
I-4	X306_V223	0.94	0.94	0.04	直形	F-24	X106_V223	0.42	0.26	0.10	直角形	P-21	X306_V214	0.20	0.10	0.02	[直角]
I-5	X306_V223	1.06	0.96	0.00	直形	F-25	X106_V223	0.20	0.20	0.00	直形	P-22	X306_V205	0.20	0.20	0.08	[直角]
I-6	X306_V223	1.02	1.02	0.04	直形	F-26	X106_V223	0.40	0.26	0.12	直形	P-23	X306_V214	0.20	0.10	0.14	[直角]
I-7	X306_V223	0.94	0.96	0.08	直形	F-27	X106_V223	0.20	0.20	0.00	直形	P-24	X306_V214	0.20	0.12	0.08	[直角]
F-1	X309_005_V220	0.74	0.76	0.00	直形	F-28	X106_V223	0.26	0.26	0.12	直形	P-25	X306_V214	0.20	0.12	0.00	[直角]
F-2	X306_V223	0.82	0.80	0.42	円形	F-29	X106_V226	0.28	0.24	0.22	直形	P-26	X306_V214	0.20	0.10	0.02	[直角]
F-3	X306_V223	0.80	0.80	0.24	直形	F-30	X106_V226	0.24	0.24	0.08	直形	P-27	X306_V214	0.22	0.10	0.04	[直角]
F-4	X306_V223	0.84	0.84	0.28	直形	F-41	X106_V226	0.26	0.26	0.26	直形	P-28	X306_V214	0.24	0.18	0.06	[直角]
F-5	X306_V223	0.80	0.80	0.34	直形	F-42	X106_V223	0.3	0.26	0.14	[直角]	P-29	X306_V214	0.28	0.20	0.00	[直角]
F-6	X306_V223	1.00	0.80	0.26	直形	F-43	X106_V223	0.24	0.22	0.12	直形	P-30	X306_V214	0.14	0.10	0.04	[直角]
F-7	X306_V223	1.00	0.80	0.20	直形	F-44	X106_V223	0.20	0.20	0.08	直形	P-31	X306_V214	0.16	0.10	0.04	[直角]
F-8	X306_099_V223	0.82	0.82	0.28	直形	F-45	X106_V226	0.26	0.26	0.14	直形	P-32	X306_V214	0.16	0.10	0.04	[直角]
F-9	X306_199_V223	0.88	0.84	0.24	直形	F-46	X106_V224	0.26	0.26	0.14	直形	P-33	X306_V214	0.16	0.10	0.12	[直角]
F-10	X306_V223	0.84	0.82	0.20	直形	F-47	X109_V224	0.26	0.26	0.22	直形	P-34	X306_V214	0.22	0.12	0.04	[直角]
F-11	X306_V223	0.84	0.80	0.24	直形	F-48	X106_V223	0.26	0.26	0.22	直形	P-35	X306_V214	0.24	0.18	0.28	[直角]
F-12	X306_V223	0.80	0.80	0.28	直形	F-49	X106_V224	0.24	0.26	0.20	直形	P-36	X306_V214	0.24	0.18	0.22	[直角]
F-13	X306_V223	0.80	0.80	0.20	直形	F-50	X106_V224	0.22	0.22	0.12	直形	P-47	X306_V214	0.28	0.20	0.22	[直角]
F-14	X306_V223	0.96	0.96	0.00	直形	F-51	X106_V224	0.26	0.26	0.12	直角形	P-48	X306_V214	0.22	0.18	0.14	[直角]
F-15	X306_V223	0.94	0.92	0.02	直形	F-52	X106_V223	0.24	0.24	0.20	直形	P-49	X306_V214	0.26	0.20	0.20	[直角]
F-16	X306_V223	0.90	0.94	0.00	直形	F-53	X106_V223	0.40	0.26	0.06	直形	P-50	X306_V214	0.20	0.20	0.00	[直角]
F-17	X306_V223	0.90	0.90	0.18	直形	F-54	X106_V223	0.24	0.24	0.14	直形	P-51	X306_V214	0.22	0.16	0.04	[直角]
F-18	X306_V223	0.90	0.90	0.16	直形	F-55	X106_V223	0.26	0.26	0.16	直形	P-52	X306_V214	0.22	0.16	0.04	[直角]
F-19	X306_V223	0.90	0.90	0.12	直形	F-56	X106_V224	0.24	0.24	0.16	直形	P-53	X306_V214	0.22	0.16	0.04	[直角]
F-20	X306_V223	0.90	0.90	0.08	直形	F-57	X106_V224	0.24	0.24	0.16	直形	P-54	X306_V214	0.22	0.16	0.08	[直角]
F-21	X306_V223	0.90	0.90	0.04	直形	F-58	X106_V224	0.24	0.24	0.16	直形	P-55	X306_V214	0.22	0.16	0.16	[直角]
F-22	X306_V223	0.90	0.90	0.00	直形	F-59	X106_V224	0.24	0.24	0.16	直形	P-56	X306_V214	0.22	0.16	0.16	[直角]
F-23	X306_V223	0.90	0.90	0.00	直形	F-60	X106_V224	0.40	0.26	0.24	直形	P-57	X306_V214	0.24	0.16	0.04	[直角]
F-24	X306_V223	0.90	0.90	0.00	直形	F-61	X106_V224	0.20	0.18	0.14	直形	P-58	X306_096_V214	0.06	0.26	0.12	[直角]
F-25	X306_V223	0.90	0.90	0.00	直形	F-62	X106_V223	0.24	0.24	0.26	直形	P-59	X307_V211	0.20	0.16	0.14	[直角]
F-26	X306_V223	0.90	0.90	0.00	直形	F-63	X106_V224	0.40	0.26	0.20	直形	P-60	X306_V214	0.24	0.16	0.16	[直角]
F-27	X306_V223	0.90	0.90	0.02	直形	F-64	X106_V224	0.24	0.24	0.18	直形	P-65	X306_V214	0.24	0.18	0.16	[直角]
F-28	X306_V223	0.90	0.90	0.04	直形	F-65	X106_V224	0.24	0.24	0.18	直形	P-66	X306_V214	0.24	0.18	0.16	[直角]
F-29	X306_V223	0.90	0.90	0.06	直形	F-66	X106_V224	0.24	0.24	0.18	直形	P-67	X306_V214	0.24	0.18	0.16	[直角]
F-30	X306_V223	0.90	0.90	0.08	直形	F-67	X106_V223	0.24	0.24	0.20	直形	P-68	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-31	X306_V223	0.90	0.90	0.10	直形	F-68	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-69	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-32	X306_V223	0.90	0.90	0.12	直形	F-69	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-70	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-33	X306_V223	0.90	0.90	0.14	直形	F-70	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-71	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-34	X306_V223	0.90	0.90	0.16	直形	F-71	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-72	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-35	X306_V223	0.90	0.90	0.18	直形	F-72	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-73	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-36	X306_V223	0.90	0.90	0.20	直形	F-73	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-74	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-37	X306_V223	0.90	0.90	0.22	直形	F-74	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-75	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-38	X306_V223	0.90	0.90	0.24	直形	F-75	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-76	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-39	X306_V223	0.90	0.90	0.26	直形	F-76	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-77	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-40	X306_V223	0.90	0.90	0.28	直形	F-77	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-78	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-41	X306_V223	0.90	0.90	0.30	直形	F-78	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-79	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-42	X306_V223	0.90	0.90	0.32	直形	F-79	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-80	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-43	X306_V223	0.90	0.90	0.34	直形	F-80	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-81	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-44	X306_V223	0.90	0.90	0.36	直形	F-81	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-82	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-45	X306_V223	0.90	0.90	0.38	直形	F-82	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-83	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-46	X306_V223	0.90	0.90	0.40	直形	F-83	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-84	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-47	X306_V223	0.90	0.90	0.42	直形	F-84	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-85	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-48	X306_V223	0.90	0.90	0.44	直形	F-85	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-86	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-49	X306_V223	0.90	0.90	0.46	直形	F-86	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-87	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-50	X306_V223	0.90	0.90	0.48	直形	F-87	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-88	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-51	X306_V223	0.90	0.90	0.50	直形	F-88	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-89	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-52	X306_V223	0.90	0.90	0.52	直形	F-89	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-90	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-53	X306_V223	0.90	0.90	0.54	直形	F-90	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-91	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-54	X306_V223	0.90	0.90	0.56	直形	F-91	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-92	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-55	X306_V223	0.90	0.90	0.58	直形	F-92	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-93	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-56	X306_V223	0.90	0.90	0.60	直形	F-93	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-94	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-57	X306_V223	0.90	0.90	0.62	直形	F-94	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-95	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-58	X306_V223	0.90	0.90	0.64	直形	F-95	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-96	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-59	X306_V223	0.90	0.90	0.66	直形	F-96	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-97	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-60	X306_V223	0.90	0.90	0.68	直形	F-97	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-98	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-61	X306_V223	0.90	0.90	0.70	直形	F-98	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-99	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-62	X306_V223	0.90	0.90	0.72	直形	F-99	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-100	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-63	X306_V223	0.90	0.90	0.74	直形	F-100	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-101	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-64	X306_V223	0.90	0.90	0.76	直形	F-101	X106_V224	0.24	0.24	0.20	直形	P-102	X306_V214	0.24	0.18	0.14	[直角]
F-65	X3																



遺構名	位 置	長軸	短軸	深さ	平面形状	遺構名	位 置	長軸	短軸	深さ	平面形状	遺構名	位 置	長軸	短軸	深さ	平面形状
P-353	X180, Y214	0.58	0.18	0.22	方形	P-359	X179, Y212-214	0.40	0.20	0.24	方形	P-366	X177-178, Y214	0.36	0.20	0.06	直角形
P-354	X180, Y214	0.26	0.20	0.22	方形	P-360	X178, Y214	0.22	0.22	0.10	方形	P-367	X177, Y214	0.26	0.24	0.10	直角形
P-354	X180, Y214	0.04	0.22	0.08	方形	P-361	X178, Y214	0.04	0.14	0.14	直角形	P-368	X177, Y214	0.02	0.28	0.00	直角形
P-355	X120, Y223	0.20	0.20	0.08	円形	P-362	X178, Y214	0.26	0.26	0.20	直角形	P-369	X179, Y214	0.02	0.22	0.14	不規形
P-356	X120, Y223	0.22	0.20	0.20	円形	P-363	X179, Y214	0.28	0.20	0.22	直角形	P-370	X179, Y212	0.26	0.22	0.00	直角形
P-357	X120, Y223	0.14	0.16	0.26	円形	P-364	X179, Y214	0.12	0.10	0.20	直角形	P-371	X179, Y212	0.20	0.28	0.00	直角形
P-358	X179, Y212-214	0.22	0.18	0.04	円形	P-365	X179, Y214	0.24	0.22	0.22	直角形	P-372	X179, Y214	0.22	0.26	0.14	直角形

Tab. 6 元総社蒼海遺跡群(59) 土坑計測表

遺構名	位 置	長軸	短軸	深さ	平面形状
D-1	X120, Y220	0.26	0.25	0.26	円形

## VI 元総社蒼海遺跡群(57)・(59)出土の獸骨

宮崎重雄

### 1 元総社蒼海遺跡群(57)出土の獸骨

#### ・性格不明遺構(X-1)出土の獸骨

##### I 1号馬

馬の下顎骨で、下顎先端部で左と右の下顎骨が分離している。埋存後の土圧により分離したものと思われる。左右とも前臼歯・後臼歯は保存状態良好で、全部の臼歯が残存する。槽間縁より前が欠損していて、切歯は確認されてない。

年齢：若馬（5才前後）。4歳頃に萌出するとされる下顎第4前臼歯や第3後臼歯がすでに萌出し、さらにこの歯で多少咬耗が進んでいることや、下顎各臼歯の咬耗度（歯冠高）から、西中川・松元（1991）の年齢推定法に従って判断すると、5歳前後となる。

性別：不明。現状では犬歯部の下顎骨が欠損していて、犬歯の確認ができず、性別を知ることはできない。

馬格：大きめの中型在来馬相当。下顎全臼歯列長が173.0mmもあり、西中川・松元（1991）の示すデータによれば大型馬サラブレッドに相當している。ただし、馬の歯列長は、一般的に年齢とともに多少減少する傾向があり、本馬のようにまだ若い個体では、多少割り引いて考えてみる必要がある。いずれにしても、1号馬は、現生の中型在来馬・木曾馬のなかでも大きめの個体に相当するとまでは言えそうで、当時としては馬格の大きい名馬として聞こえていたものと思われる。

##### II 2号馬

1号馬同様に、出土したのは下顎骨で、下顎先端部で左と右の下顎骨が分離していた。左・右とも前臼歯・後臼歯の保存状態は良くすべて残存していた。下顎骨は先端部までは残存していたが、切歯部・犬歯部の保存状態はあまりよくない。切歯は現状で2本確認できただけである。

年齢：若馬（5才前後）。1号馬と歯の萌出状況に大きな差ではなく、下顎第4前臼歯や第3後臼歯がすでに萌出し、その上、多少咬耗が進んでいることや、下顎各臼歯の咬耗度（歯冠高）が1号馬に近い値を示していることで、5歳前後と判断した。すなわち1号馬と2号馬は同年齢の若い個体ということである。

性別：不明。現状では犬歯部の下顎骨の保存状態がよくなく、犬歯の存在が確認できず、性別を知ることはできない。まだ萌出しないで下顎骨内にある可能性も考えられる。

馬格：大きめの中型在来馬相当。下顎全臼歯列長が1号馬よりもさらに大きく175.0mmもあり、西中川・松元（1991）の示す大型馬サラブレッドに相当している。しかし、上記のような理由で、じっさいは現生の中型在来馬・木曾馬の大きめの個体に相当する馬格であったと思われる。それでも当時としてはきわめて大きな馬であったといえる。

特記：2個体分のまだ若い5歳前後のしかも馬格の立派な馬の下顎骨だけが出土したというのは、きわめて不自然である。出土地点付近には下顎骨以外の部位は全く見当たらず、下顎骨だけが持ち込まれたことは明らかである。どんな理由によりこのような行為がなされたのかは、今のところ手がかりがなく、他遺跡等での今後の類例

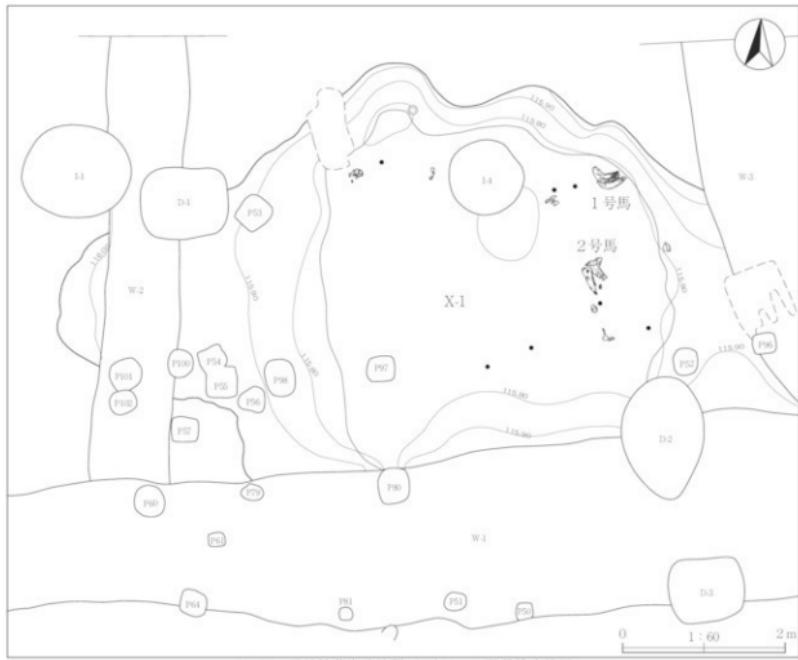


Fig.25 元總社蒼海遺跡群 (57) X-1 獣骨検出状況

の増加をまって、改めて考察する機会を持ちたい。

### III ニホンジカ

ニホンジカの左上腕骨遠位部と右脛骨近位部が出土している。成獣である。

#### ・1号井戸（I-1）出土の獣骨

##### I 1号馬

年齢：成馬

性別：不明

馬格：小型在来馬相当？

#### 2 元總社蒼海遺跡群（59）出土の獣骨

#### ・3号溝（W-3）出土の獣骨

##### I 1号馬

左右の上顎骨が出土し、左右とも前臼歯・後臼歯が完存する。上顎先端部（近心部は）欠損し、犬歯・切歯は存在しない。

年齢：歯冠高から14歳前後と推定される。

性別：犬歯部を欠損しているために、性別の判断はできない。

馬格：全臼歯列長は150cm余で、日本小型在来馬のトカラ馬相当であったと思われる。



1号馬 右側下顎面（舌側面觀）



1号馬 右側下顎面（頰側面觀）



1号馬 左側下顎面（舌側面觀）



1号馬 左側下顎面（頰側面觀）



2号馬 右側下顎面（舌側面觀）



2号馬 右側下顎面（頰側面觀）



2号馬 左側下顎面（舌側面觀）



2号馬 左側下顎面（頰側面觀）

### 主な参考・引用文献

西中川勝・松元（1991）「道路出土骨頭定のための基礎的研究」『西中川駿編：古代道路から見たわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究』平成2年度文部省科学研究費補助金（一般研究B）研究成果報告書。164～188。

野村晋一（1977）『輿説馬学』西川書店。

元総社蒼海道路群（57）出土馬歯計測値

1号馬下顎臼齒

	第2前臼齒 左	第3前臼齒 左	第4前臼齒 左	第1後臼齒 左	第2後臼齒 左	第3後臼齒 左
歯冠近達心径	34.4	31.3	30.3	25.3	26.1	27.2
歯冠頸舌径	14.5	16.0	15.8	13.3	12.7	9.9
歯冠高頸側	44.2	60.8	68.0	60.3		
歯冠高舌側	41.8	59.6	72.1	62.4	68.5	70.4
下後緑谷長	7.3	9.8	8.5	8.4	8.9	7.7
下内緑谷長	18.2	14.0	13.1	9.6	10.1	8.8
doubleknot 長	15.0	17.0	15.4	14.8	13.3	12.4
下内緑幅	7.9	6.2	6.4	4.1	4.5	4.0
下顎高	60.8	67.7	73.2	83.0	82.3	91.8

単位mm

下顎全臼齒列長：173.0 mm

2号馬下顎臼齒

	第2前臼齒 右	第3前臼齒 右	第4前臼齒 右	第1後臼齒 右	第2後臼齒 右	第3後臼齒 右
歯冠近達心径	35.4	31.5	30.0	26.5	27.5	30.1
歯冠頸舌径	14.4	15.5	15.2	14.4	13.6	11.9
歯冠高頸側	42.7	52.9	70.2		73.6	
歯冠高舌側	41.2		69.0	59.2		68.3
下後緑谷長	8.7		10.6	9.5	9.4	8.6
下内緑谷長	18.4	16.9	13.3	9.4	10.1	8.0
doubleknot 長	16.9	18.0	16.1	14.3	11.9	13.4
下内緑幅	6.0	6.1	5.9	4.5	4.5	3.8
下顎高	56.7	64.2	76.9	77.5	82.2	92.3

単位mm

下顎全臼齒列長：175.0 mm

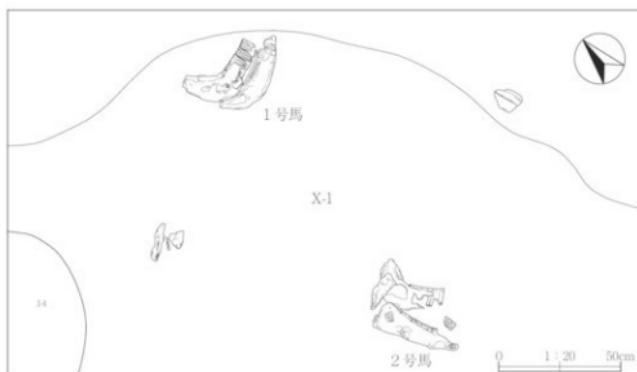


Fig.26 元総社蒼海道路群（57）X-1 1・2号馬検出状況

## VII まとめ

今回の元總社蒼海遺跡群（57）、（58）、（59）の3次の調査において、堅穴住居跡1軒、溝跡6条（うち堀跡4条）、堅穴状遺構1基、性格不明遺構1基、井戸跡13基、土坑・ピットを検出した。

ここでは各調査による成果を概観し、まとめとしたい。

### 1 元總社蒼海遺跡群（57）

溝跡3条、性格不明遺構1基、井戸跡4基、土坑・ピットを確認している。

3条を検出した溝跡のうちW-1号溝跡は蒼海城に伴う堀跡と思われ（Fig.27）、検出位置・走行方向から『元總社蒼海遺跡群（23）』24地点W-5号溝跡の延伸部である。既往の調査では、遺構内から多量のかわらけや貿易陶磁器の他、炭化材などが出土しており、郭内の建物が火災に遭い不要となった物を土壘と共に堀に廃棄し、埋めた状況を想定されている。しかしながら本調査区でのW-1号溝跡においては、少数のかわらけなどは出土しているものの、貿易陶磁器や炭化材などの遺物は出土しておらず、出土遺物の総数自体も少ないものであり、本調査区域での廃棄は極めて少なものであったと考えられる。

その他の特徴的な遺構としては、W-1号溝跡の北側に広がる性格不明遺構（X-1）が挙げられる。不整形な平面形態で、底面に硬化は認められず、立ち上がりは急峻な箇所・緩やかな箇所が見られる。自然地形とは考えがたく、人為的な掘り込みと想定でき、堅穴住居跡などの重複の可能性もあるが、住居跡と確定できる要素がないため本報告では性格不明遺構として扱っている。また覆土は鉄分が沈着しており極めて堅緻であるが、人為的な埋め戻しの痕跡は見られず出土遺物もやや時期幅を持つため、比較的長い時間をかけて自然埋没していった過程を推測できる。

X-1での特筆される遺物として、覆土中から残存状態の良好な獣骨が複数点出土している（Fig.25・26）。宮崎重雄氏の鑑定によると2個体は馬の下顎骨であり、いずれも性別は不明であるが5歳前後の馬で、各計測の結果として大きめの中型在来馬相当とされている。また、他部位の骨は確認できず下顎骨のみであり、単に廃馬を投棄したものではなく、意図的に下顎のみを持ち込んだものと考えられる。馬骨出土位置の周辺からは、成獣の二ホンジカの左上腕骨遠位部と右脛骨近位部が出土している。なお、これらの周辺には他遺構の掘り込みや重複は認められず、遺構・獣骨の出土状況などと併せて不自然な状況が指摘されており、何らかの祭祀・儀礼を行った可能性が考えられるが、確証がないため宮崎氏の指摘通り周辺遺跡での類例の増加をもって再度検証する必要があろう。

### 2 元總社蒼海遺跡群（58）

元總社蒼海遺跡群（58）では溝跡2条、井戸跡9基、土坑・ピットを検出した。

溝跡は2条検出している。W-1号溝跡は残存上幅約4m・下幅約3mで、断面は箱堀の形態を示している。南西から北東に走行し約30mにわたる長さを検出しているが、その底面は平坦であり高低差もほとんど見られない。土層観察からも湛水の痕跡は見られず、長期間にわたって管理されていたと推察される。また底面直上からは灰釉陶器や羽釜が出土しており、これらの出土遺物や覆土の堆積状況からW-1号溝跡は10世紀代以前の開削が考えられる。規模や開削時期、また丁寧に管理されていた状況が示唆されることから、W-1号溝跡は上野国府に関連する遺構、大溝である可能性が高いものと指摘される。上野国府に関連する遺構については、元總社蒼海遺跡群内での既往の調査や前橋市による確認調査が行われ、元總社蒼海遺跡群（3）、（7）、（9）・（10）、（14）・（19）、（36）や元總社明神遺跡Ⅱ、Ⅲ・Ⅳ、閉泉橋遺跡や寺田遺跡において国府に伴う大溝と思われる遺



Fig27 元總社蒼海遺跡群 (57) - (58) - (59) 周辺蒼海域想定図（神宮・佐野 2010 を一部加筆）

構が確認されており、国府域の想定がなされている。しかしながら、本調査で検出したW-1号溝跡は、これまでの成果に基づく大溝の想定ラインから大きくはずれており走行する角度も異なることなどから、今後の調査によりさらなる解明が求められる。

W-2号溝跡は調査区北端で南北方向に走行する形での検出であり、直近にブロック塀が残ることから安全性を考慮しトレントン調査としている。調査では底面の検出には至っていないが残存する深さは約1.5mを測り、規模・形状からW-2号溝跡は蒼海域に関連する堀跡であると想定される。この遺構は検出位置・走行方向から『元總社蒼海遺跡群 (23)』25・26地点W-1号溝跡（1号トレントン）と同一遺構と考えられ、総社資料館に所蔵されている「蒼海域絵図」や山崎氏が作成した縄張図と照らし合わせると（Fig27）、蒼海城本丸と松井屋敷と呼ばれる郭の間を走る堀跡と整合するものと考えられる。

また、今回の発掘調査で調査区全域にわたって400基近い数のピットを検出した。いずれも中世段階のピットと思われ、これらの中には松井屋敷内に構築されたであろう掘立柱建物跡の柱穴になり得るものが多く存在するものと推測される。

### 3 元總社蒼海遺跡群 (59)

元總社蒼海遺跡群 (59) では堅穴住居跡1軒、堅穴状遺構1基、溝跡3条、土坑1基を検出した。

堅穴住居跡は1軒検出しているが（H-1号住居跡）、東半は調査区外となり竈などの付属施設は確認できていない。本遺構からは須恵器のほかに瓦類が多く出土している。これらの瓦類は上野国分僧寺跡、上野国分尼寺跡、山王寺跡などから持ち込まれた可能性が考えられるが、現時点では国分僧寺跡や国分尼寺跡から持ち込んでいる可能性が高いと思われる。このような出土遺物の傾向から、H-1号住居跡は国分寺が衰退してから、11世紀代以降に帰属する遺構であると思われる。

また、調査区北西で堅穴状遺構を検出している。明確な硬化面は見られず、掘り込みもやや緩やかなため、住居跡とは異なると思われる。出土遺物が少なく詳細な時期は不明であるが、覆土などの状況から中世期の遺構と推測される。

溝跡は3条検出しており、W-1・3号溝跡が時期や規模・形状から蒼海域に伴う堀跡と想定される。W-1号溝跡については山崎氏の縄張図に据ると清徳寺と松井屋敷とされる郭の間を走る堀と考えられる（Fig27）。W-3号溝跡については松井屋敷の南側の堀に合致するものであり、位置的には本調査区南西の元總社蒼海遺跡群（38）8区で検出されたW-1号溝跡の延伸部にあたるが、平・断面形状については差異も見られ、同一遺構

になるかは不明である。今回の発掘調査により検出した2条の堀跡の位置関係から、本調査区内は松本屋敷と呼称される郭内に当たる可能性が高いものと思われる。しかしながら遺構の検出数自体が僅少であり、確実に蒼海城に伴うと考えられる遺構はなく、本調査においては当時の構造物の復元には至らなかったため、周辺での調査事例の増加が待たれる。

元総社周辺は上野国府が所在した地域で、国分僧寺・国分尼寺や山王庵寺なども建立されており、古代群馬の中枢をなす地域として知られている。元総社蒼海遺跡群では、周辺遺跡を含め近年継続的な発掘調査が実施されており、多様な遺構・遺物が確認されている。今回の3次にわたる発掘調査においても、蒼海城に関わる堀跡をはじめとして多様な遺構の検出をみたが、なかでも元総社蒼海遺跡群（58）での上野国府に関する可能性の高い溝跡（W-1号溝跡）の確認は、上野国府の解明において重要な成果であると思われる。今後の発掘調査・研究によって、さらに当地域の歴史が明らかになることが期待される。

最後に、寒風のなか発掘調査に従事された作業員の方々、現地調査や報告書作成にあたり御指導、御協力いただいた方々に感謝の意を表し、結びとしたい。

#### 参考文献

- 山崎 一 1978 『群馬県古城址の研究 上巻』 群馬県文化事業振興会  
中世土器研究会編 1995 『概説 中世の土器・陶磁器』 真陽社  
前橋市教育委員会 1983 『文化財調査報告第13集（関泉橋遺跡）』（大溝）  
前橋市教育委員会 1984 『元総社明神遺跡II』（大溝）  
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1986 『元総社明神遺跡III・IV』（大溝）  
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1986 『寺田遺跡』（大溝）  
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2005 『元総社蒼海遺跡群（3）』（大溝）  
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2006 『元総社蒼海遺跡群（7）』（大溝）  
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2007 『元総社蒼海遺跡群（9・10）』（大溝）  
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2008 『元総社蒼海遺跡群（14・19）』（大溝）  
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009 『元総社蒼海遺跡群（21）』  
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009 『元総社蒼海遺跡群（23）』  
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2010 『元総社蒼海遺跡群（31）』  
前橋市教育委員会 2011 『元総社蒼海遺跡群（36）』（大溝）  
前橋市教育委員会 2012 『元総社蒼海遺跡群（38）』  
前橋市教育委員会 2013 『元総社蒼海遺跡群（41）、（42）、（43）』  
前橋市教育委員会 2013 『元総社蒼海遺跡群（44）、（45）』  
前橋市教育委員会 2013 『元総社蒼海遺跡群（47）』



(57) 調査区近景 (東から)



(57) W-1号溝跡 全景 (東から)



(57) W-2号溝跡 全景 (南から)



(57) W-3号溝跡 全景 (南から)



(57) X-1 全景 (南から)



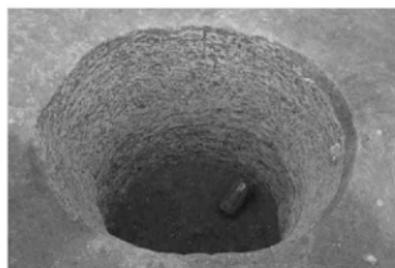
(57) X-1・2号馬骨検出状況 (南から)



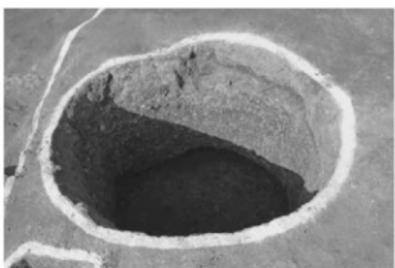
(57) X-1 1号馬骨検出状況 (南から)



(57) X-1 2号馬骨検出状況 (西から)



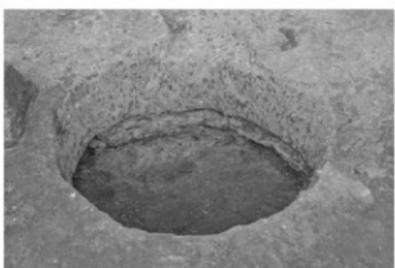
(57) I - 1号井戸跡 全景 (南から)



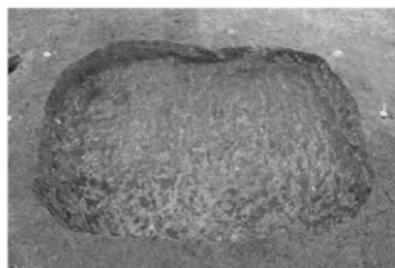
(57) I - 2号井戸跡 全景 (南から)



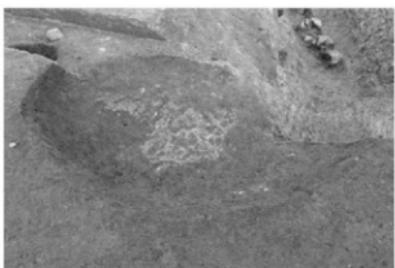
(57) I - 3号井戸跡 全景 (南から)



(57) I - 4号井戸跡 全景 (南から)



(57) D - 1号土坑 全景 (南から)



(57) D - 2号土坑 全景 (東から)



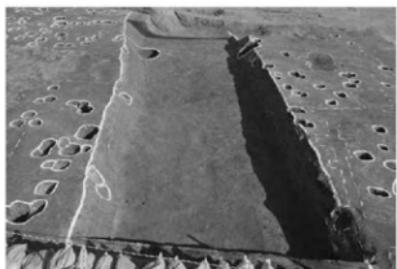
(57) D - 3号土坑 全景 (北から)



(57) 調査区南西ピット群 全景 (南から)



(58) 調査区全景 (上が西)



(58) W-1号溝跡 東側全景 (西から)



(58) W-1号溝跡 西側全景 (東から)



(58) W-1号溝跡 遺物検出状況 (東から)



(58) W-1号溝跡 遺物検出状況 (南から)



(58) W-2号溝跡 全景 (南から)



(58) W-2号溝跡 セクション (南から)



(58) I-1号井戸跡 全景 (南から)



(58) I-2号井戸跡 全景 (南から)



(58) I-3号井戸跡 全景 (南から)



(58) I-4号井戸跡 全景 (南から)



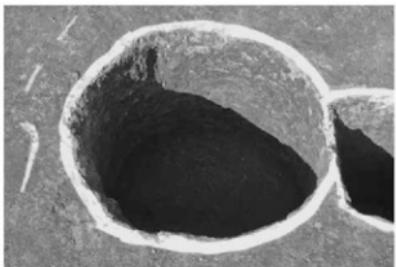
(58) I-5号井戸跡 全景 (南から)



(58) I-6号井戸跡 全景 (南から)



(58) I-7号井戸跡 全景 (南から)



(58) I-8号井戸跡 全景 (南から)



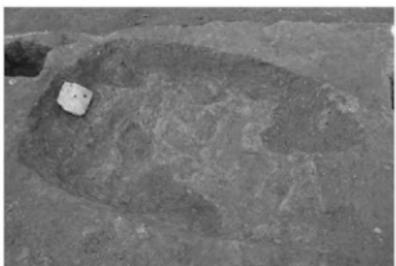
(58) I-9号井戸跡 全景 (南から)



(58) D-1号土坑 全景 (南から)



(58) D-2号土坑 全景 (南から)



(58) D-3号土坑 全景 (南から)



(58) 調査区東側ピット群 全景 (北から)



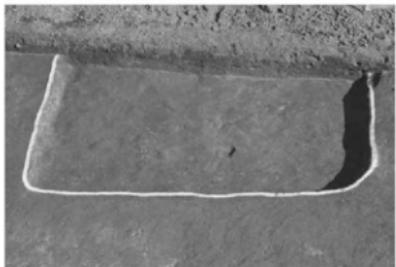
(58) 調査区西側ピット群 全景 (南から)



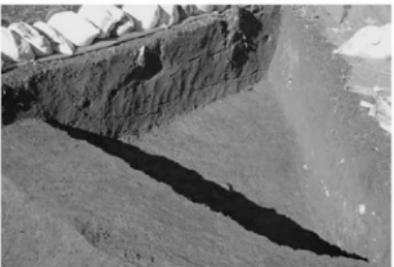
(59) 調査区東側全景 (南から)



(59) 調査区南側全景 (南から)



(59) H-1号住居跡 全景 (西から)



(59) T-1号堅穴状遺構 全景 (南から)



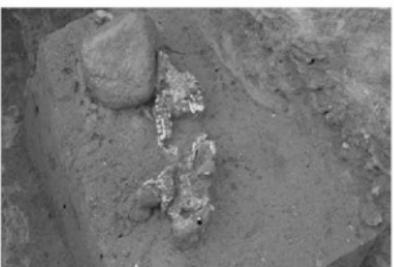
(59) W-1号溝跡 全景 (南から)



(59) W-2号溝跡 全景 (東から)



(59) W-3号溝跡 全景 (北から)



(59) W-3号溝跡 馬骨検出状況 (北から)

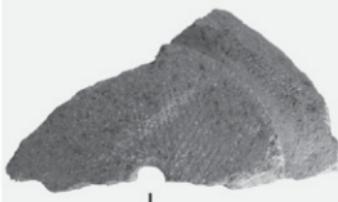
## 元總社舊海遺跡群 (57)



W-1-1



W-1-2



W-1-4 (1/4)



W-1-3 (1/4)



W-2-1



W-2-2



I-1-1



X-1-1



X-1-2



X-1-3



P-13-1 (1/1)



P-93-1



造構外-1 (1/1)

## 元總社舊海遺跡群 (58)



W - 1 - 1



W - 1 - 2



W - 1 - 3



W - 1 - 4



W - 1 - 5 (1/4)



W - 2 - 1 (1/4)



I - 1 - 1 (1/4)



D - 3 - 1 (1/4)



I - 3 - 1 (1/4)



P - 308 - 1 (1/1)



P - 23 - 1 (1/2)



P - 23 - 2 (1/2)



遺構外 - 1 (1/4)



P - 99 - 1

## 報告書抄録

カタカナ	モトソウジャオウミイセキグン (57)、(58)、(59)
書名	元総社蒼海遺跡群 (57)、(58)、(59)
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海上地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	-
シリーズ名	-
シリーズ番号	-
編著者名	福田貴之・山田誠司
編集機関	技研コンサル株式会社
編集機関所在地	〒371-0031 群馬県前橋市下小出町1-15-3
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三保町2-10-2
発行年月日	2014年3月20日

フリガナ	フリガナ	コード	位置		調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	道路番号	北緯	東経			
元総社蒼海遺跡 (57)	前橋市元総社町 1919-1ほか	10201	25A156	36°23'10"	139°2'14"		330m <sup>2</sup>	前橋都市計画事業 元総社蒼海上地区 画整理事業
元総社蒼海遺跡 (58)	前橋市元総社町 1912-1ほか	10201	25A157	36°23'10"	139°2'11"	2013.11.25 ～ 2014.1.31	700m <sup>2</sup>	前橋都市計画事業 元総社蒼海上地区 画整理事業
元総社蒼海遺跡 (59)	前橋市元総社町 1445-20ほか	10201	25A158	36°23'8"	139°2'3"		270m <sup>2</sup>	前橋都市計画事業 元総社蒼海上地区 画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
元総社蒼海遺跡群 (57)	城館跡 その他	平安時代 中・近世	溝 堀跡 1条 性格不明遺構 1基 井戸 1基 土坑・ピット	2条 1条 性格不明遺構 1基 井戸 1基 土坑・ピット	須恵器・土師器 かわらけ・青磁 石製品	・蒼海城の堀跡。
元総社蒼海遺跡群 (58)	城館跡 その他	平安時代 中・近世	溝 堀跡 1条 井戸 9基 土坑・ピット	1条 1条 9基	須恵器・土師器 かわらけ・石製品	・上野国府に関連する溝跡。 ・蒼海城の堀跡。
元総社蒼海遺跡群 (59)	城館跡 その他	平安時代 中・近世	堅穴住居跡 堅穴状遺構 溝跡 堀跡 土坑	1軒 1基 1条 2条	須恵器・土師器 瓦・かわらけ 石製品	・平安時代の住居跡。 ・蒼海城の堀跡。

### 元総社蒼海遺跡群 (57)

### 元総社蒼海遺跡群 (58)

### 元総社蒼海遺跡群 (59)

前橋都市計画事業元総社蒼海上地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2014年3月13日 印刷

2014年3月20日 発行

発行

前橋市教育委員会文化財保護課

〒371-0018 群馬県前橋市三保町2-10-2

TEL 027-231-9531

編集

技研コンサル株式会社

印刷

朝日印刷工業株式会社